

アンケート調査の結果

～神奈川県 結婚・出産・子育て、地方創生などに関する県民意識調査～

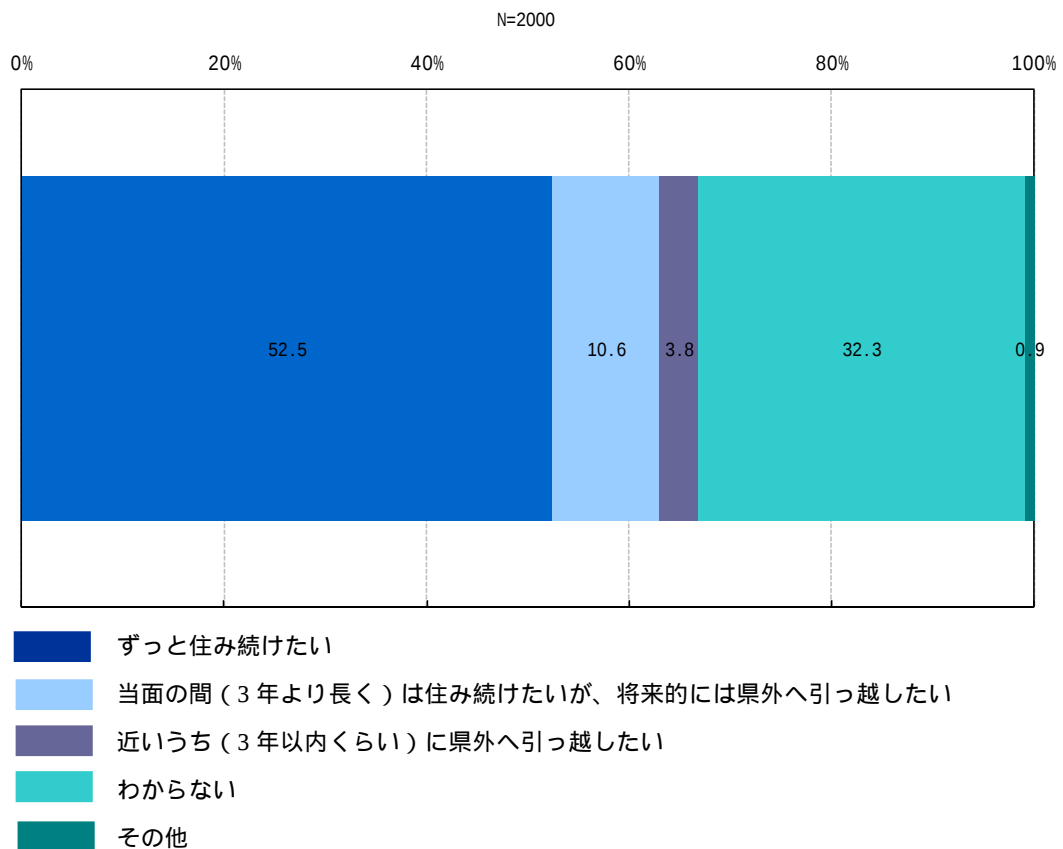
【1.移住】

（１）今後の神奈川県での居留意向

今後も神奈川県に住み続けるかどうかについて、「ずっと住みたい」と回答した者が最も多く、52.5%であった。

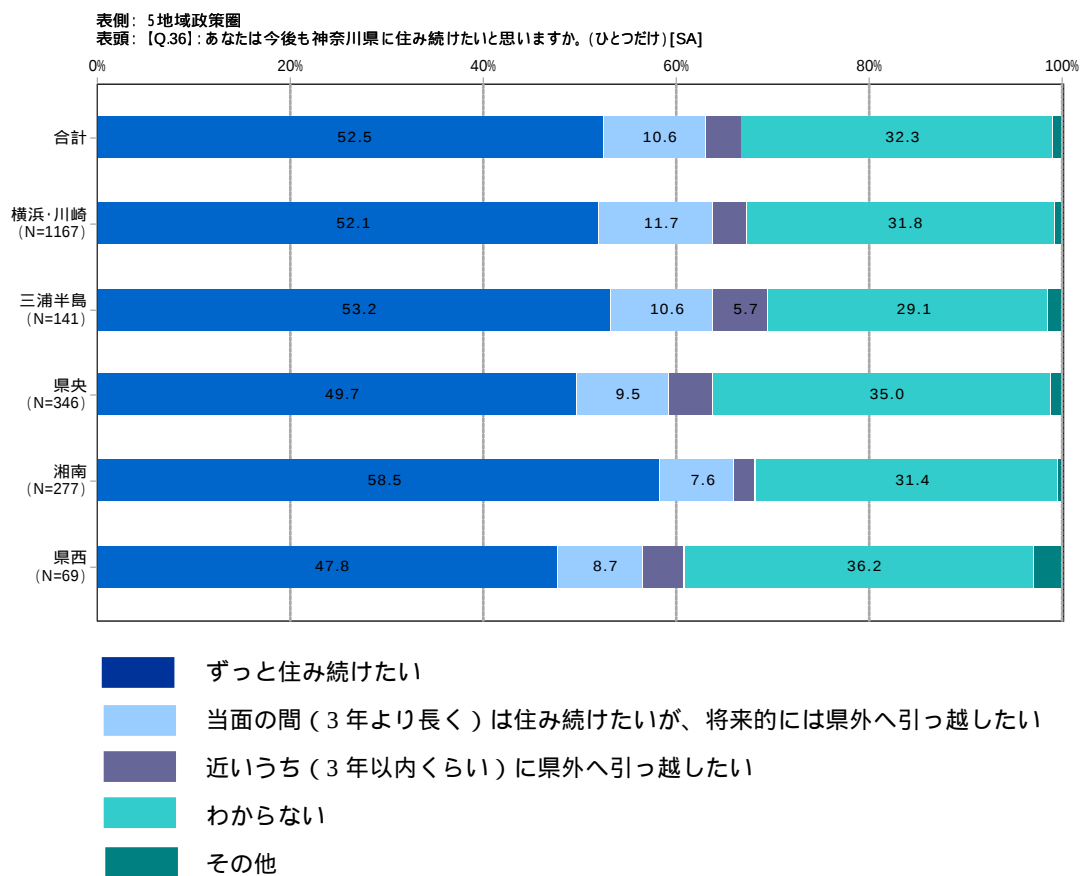
一方で、「わからない」と回答した者が 32.3%と２番目に多かった。

図表 今後の神奈川県での居留意向



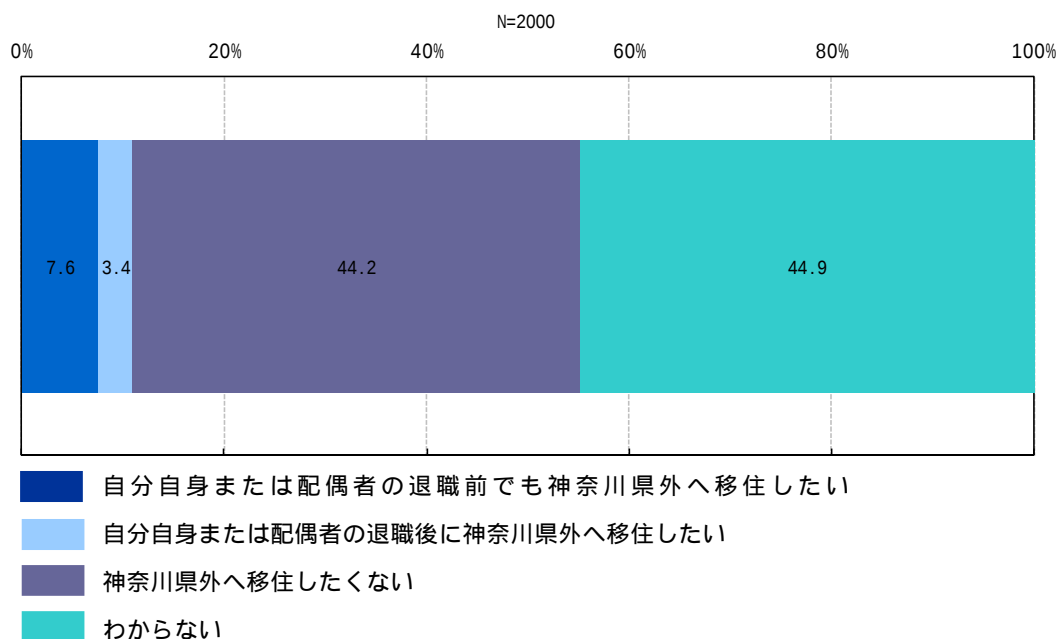
< 地域別 >

地域別に見ると、「ずっと住みたい」という割合は湘南地域で 58.5%と最も高くなった一方、県西地域で 47.8%と最も低くなった。



(2) 将来の神奈川県外への移住意向

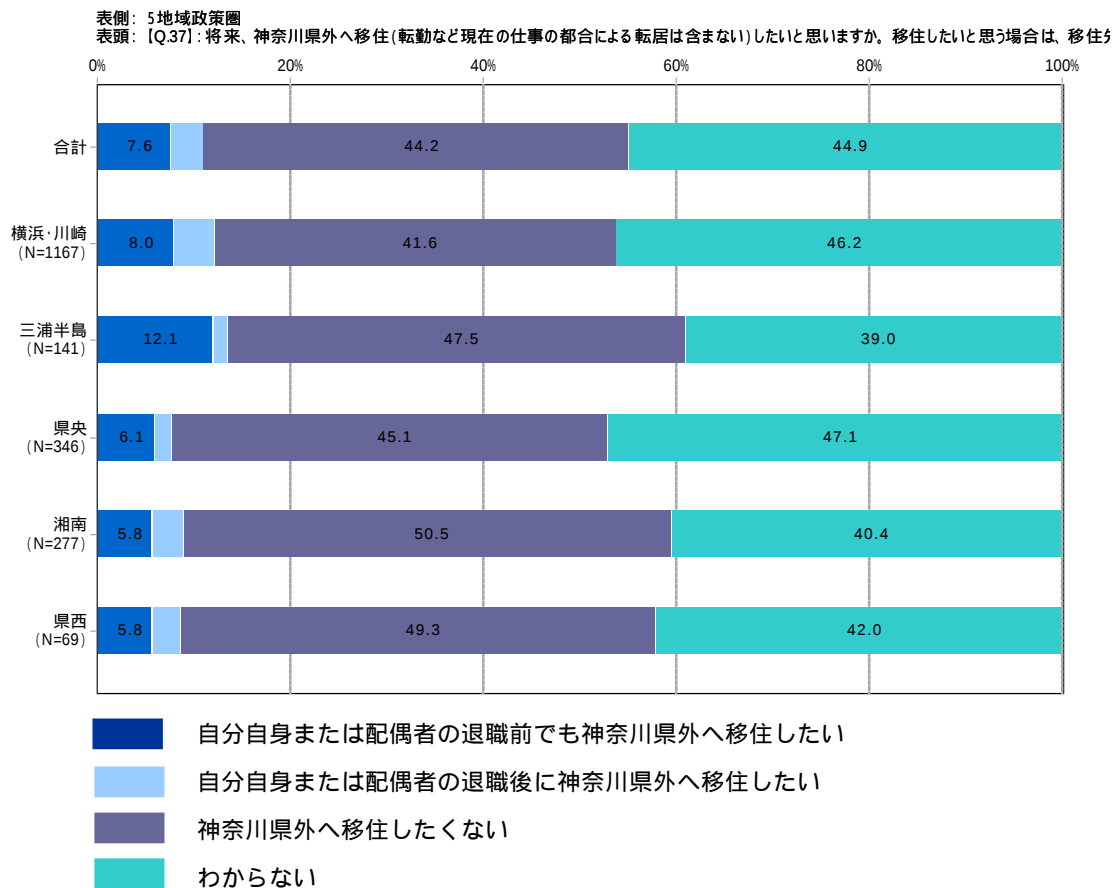
将来、神奈川県外へ移住（転勤などの現在の仕事の都合による転居は含まない）したいかどうかについて、「わからない」と答えた者が 44.9%、神奈川県外へ移住したくないと答えた者が 44.2%であった。



< 地域別 >

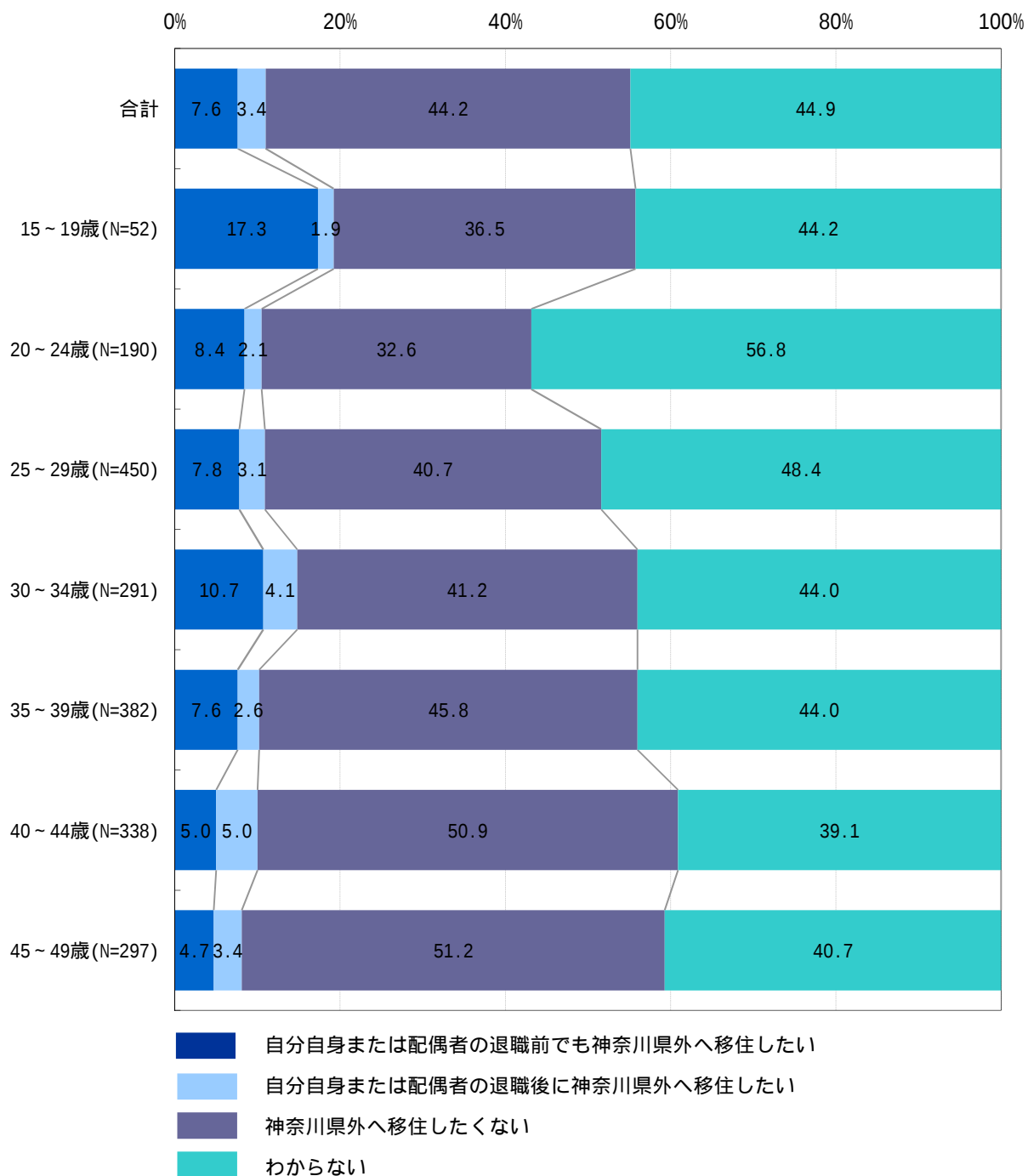
地域別に見ると、三浦半島地域において「自分自身または配偶者の退職前 / 退職後に神奈川県外へ移住したい」という割合が最も高くなった。

また、県央地域において「わからない」という回答が最も高くなった。



<年代別>

将来、神奈川県外へ移住（転勤など現在の仕事の都合による転居は含まない）したいと思いますか。（ひとつだけ）

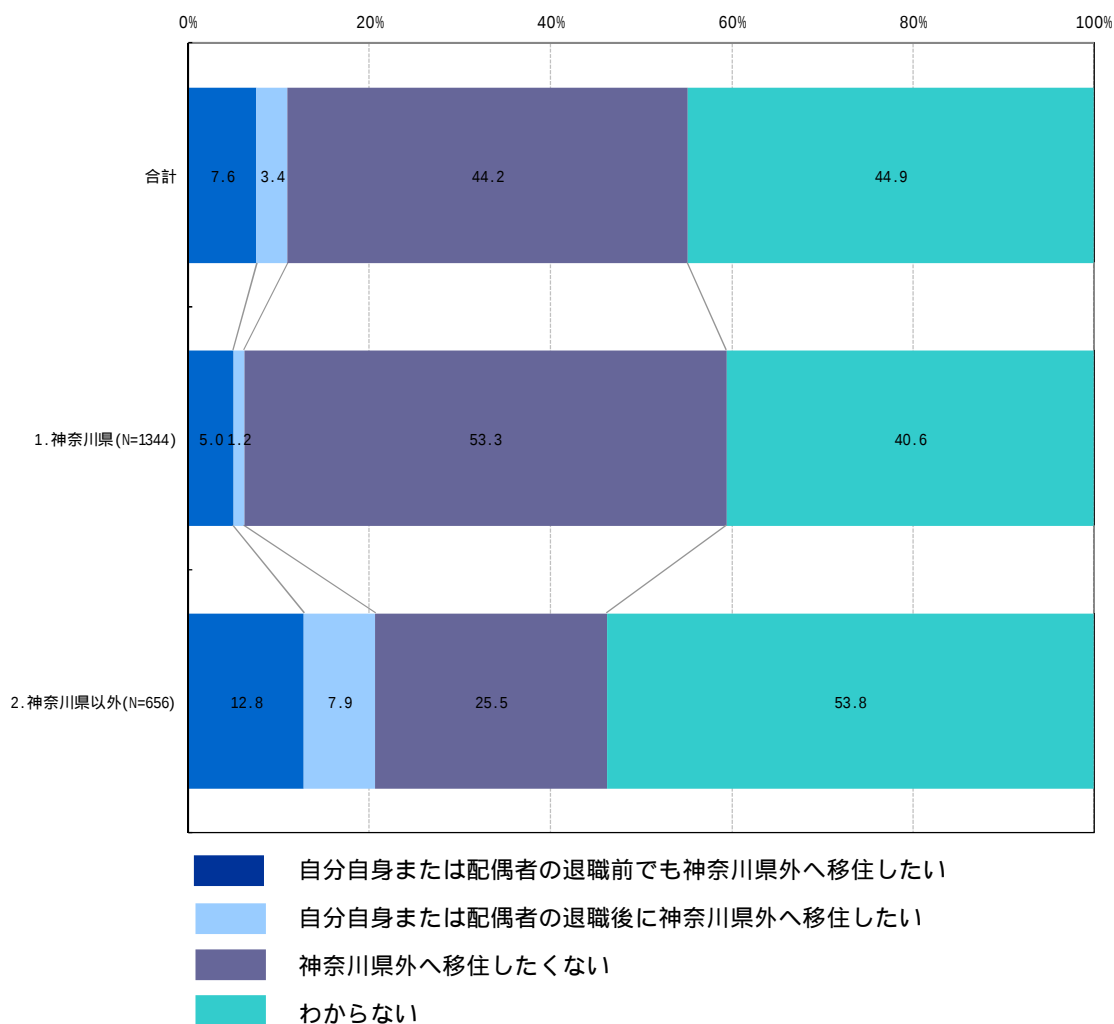


< 出身地別 >

出身地別に見ると、「神奈川県外へ移住したくない」と回答した者の割合は、神奈川県出身の者で高く（53.3%）、神奈川県以外出身の者で低くなっており（25.5%）、その差は 27.8%であった。

また、神奈川県出身以外の者は県外の移住について「わからない」と回答する者の割合が最も多く 53.8%であった。

【Q.37】：将来、神奈川県外へ移住（転勤など現在の仕事の都合による転居は含まない）したいと思いますか。移住したいと思う場合は、移住先候補の都道府県についてもお知らせください。（ひとつだけ）[SA]



(3) 主な移住希望先

< 自分自身または配偶者の退職前でも神奈川県外へ移住したいと回答した方 >

都道府県	件数	都道府県	件数
北海道	7	長野県	1
北海道、宮城県、長野県、新潟県	1	静岡県	2
北海道・大阪府	1	静岡、福岡	1
青森県	1	愛知県	6
岩手県	1	愛知県名古屋市	1
宮城県	1	大阪府	2
福島県	3	大阪、神戸	1
福島県または宮城県	1	大阪市	1
栃木県	1	兵庫県	1
栃木、長野	1	奈良県	1
群馬県	1	和歌山県	1
埼玉県	1	島根県	1
千葉県	3	岡山県	1
千葉、茨城	1	広島県	1
千葉県南房総	1	広島県、三重県	1
東京都	47	山口県	1
東京 都心から 1 時間以内	1	徳島県	1
東京、埼玉、千葉	1	高知県	1
東京・兵庫	1	四国 小笠原	1
東京都、ドイツ	1	福岡県	1
東京都 23 区内	1	長崎県	1
東京都多摩市	1	大分県	1
町田	1	沖縄県	4
神奈川県	1	鹿児島県鹿児島市または、広島県	2
横須賀市	1	沖縄県、岡山県、九州地方	1
横浜市青葉区	1	九州	1
新潟県	3	海の近くがいいですね。	1
富山県	1	海外・国外	6
富山県か九州	1	マレーシア	1
石川県	2	台湾、マレーシア	1
福井県	1	特になし・未定	7
山梨県	2	住みにくい	1
山梨、千葉、群馬	1	住み慣れている 便がいい	1
山梨や四国	1	住んでいる	1
		土地があるから	1

< 自分自身または配偶者の退職後に神奈川県外へ移住したいと回答した方 >

都道府県	件数
北海道	6
岩手県	1
宮城県	4
山形県、その他	1
福島県	1
群馬県	1
千葉県	1
東京都	4
新潟県	2
富山県	2
石川県	2
山梨県	1
長野県	2
岐阜県	1
静岡県	5
三重県	1
京都府	1
大阪府	4
兵庫県	2
島根県	1
島根県などゆったりした時間を過ごして、すぐに住み慣れる場所	1
岡山県	2
山口県	1
愛媛県	1
福岡県	3
長崎県	1
熊本県	1
鹿児島県	2
沖縄県	3
長崎県、福岡県	1
福岡、沖縄	1
のんびり過ごせるような九州や沖縄もいいかもしれない	1
海外	1
地元に戻りたい	1
候補はないが、一生過ごす場とは思っていない。(配偶者も同意見)	1
未定	2
どこでもいい・特になし	2

(4) 移住したい理由

性別	回答内容
2.女性	いずれは実家に帰って継ぐことは決まっているので。
2.女性	いろいろと不便。とにかく嫌
1.男性	いろんな町に引っ越しを繰り返しながら住んでみたい。
2.女性	お互いの両親が兵庫県、香川県に住んでいるのでできるだけ近くに住みたいから
1.男性	こだわる必要は無い
1.男性	この国が相当程度暮らしぶらくなってきたし、戦前の様に危なくなってきた。
1.男性	ごみごみしすぎていて住環境に適さないの
2.女性	とくに、ありません
2.女性	とにかく・・・から離れたい
1.男性	なんとなく
1.男性	のんびりした環境が好きなので。
1.男性	のんびりした場所が好きだから。
2.女性	のんびり暮らせそう
1.男性	ふるさとに戻りたいから。
2.女性	まずは研鑽を積むためドイツへ留学したいと考えており、移住する可能性もないではないため書きました。 東京を選んだ理由は前の問題で答えたとおりです。
2.女性	もっと自然が充実しているところで子育てをしたいから。・・・で生活するには、今の給料だと厳しいから。
2.女性	もっと自然豊で静かな生活もあこがれる
1.男性	もっと田舎で暮らしたい
1.男性	やはり生まれ育った土地が暮らしやすい
1.男性	やりたいことがあるので、そのための拠点を東京に移したいため
2.女性	よく行く場所だから
1.男性	リタイア後は地元である福岡県に戻りたい。
1.男性	以前住んでいて印象が良かったから。
1.男性	違う所にも住んでみたいから。
2.女性	一人暮らしをする
2.女性	一度の人生だしずっと神奈川に住むのはいやだ
2.女性	・・・が大嫌い
1.男性	・・・は何もない
2.女性	沖縄が好き
2.女性	家賃が高いから。愛媛県はマンションですら 21000 円という驚きの家賃なので。
1.男性	花粉がないから。
2.女性	開放的で自然あふれるところで余生を過ごしたい。
2.女性	学生生活など、生活がほとんど東京だった為、東京の方が居心地が良いので。
2.女性	環境
2.女性	環境がよいから
2.女性	気候がよい、人口が多すぎない
1.男性	気候が好きな土地と故郷。

1.男性	気候の温暖なところで暮らしたい。
2.女性	気分転換
1.男性	休みに都内へ出ることが多いため。
2.女性	狭いところで車も多くストレスフルなご近所に最近嫌気がさしてきた
1.男性	勤務先が遠いため
1.男性	勤務地に近い
1.男性	具体的な地域は決まっていますが、海がきれいなところがいいですね。温泉地なんかも住みたいですね。
1.男性	経済的に楽になるため
2.女性	警察の不祥事など、評判が悪いから
2.女性	結婚相手が県外なので
1.男性	県外になんとか憧れがあるから。
2.女性	現在住んでおり持ち家あり
2.女性	故郷
1.男性	故郷だから
1.男性	故郷だから
1.男性	故郷に帰るため。
1.男性	故郷に帰るのも悪くないから
2.女性	交通が不便な為
2.女性	交通のベンがいい
2.女性	交通の便利なところが良い
1.男性	公営住宅に引っ越したいから。べつに神奈川県内でも外でもかまわない。
2.女性	公的な支援が、現在住んでいる場所よりも充実しているので。
2.女性	好きだから
2.女性	好きな土地だから
2.女性	行政のサービスがよいから
1.男性	今の神奈川県は県民のことを考えてるとは思えない。 ● ● も一部の金持ちに牛耳られて市民の安全ではなく未来のことを考えていない金儲け主義になってるので、住みやすい場所に移住したい
1.男性	今は大学に通うためにこちらに来ているが卒業したら地元に戻りたいから。
1.男性	歳をとると行動範囲が狭くなるのでコンパクトな都市がいい
2.女性	仕事が少ない。
1.男性	仕事や生活面で利便性の高い土地の方がいい。
1.男性	仕事上と通勤時間、今後の活動のため
2.女性	子育てしやすいと感じた事が無い。 見栄っ張りな人が多い。
1.男性	子育てと自然が多い場所で充実した生活をしたい。
1.男性	子供が大学へ行ったらその近くに一緒に住みたい
2.女性	子供への助成がよくないから
2.女性	私の出身地である石川県が好きであるから。
1.男性	持ち家ではないので、高齢になったときに借りることができるかどうか分からない。高齢になったときに暮らしやすいところに行きたいと思う。

2.女性	自身も配偶者も、就職で神奈川に来ており、仕事が一段落したら神奈川に固執する必要はないと思っている。神奈川は都会のようで都会ではなく、意外と不便。特に道路やお店の事情。老後はそういうストレスが少なく、自由に楽しめる場に居住したい。
1.男性	自然が多く、のんびり暮らせるから
1.男性	自然が多そうで環境がよさそう
1.男性	自然が豊かで土地が安い地域で子育てをしたいと思っているので
2.女性	自然に囲まれたいから
2.女性	自分の実家の近くに住みたいから
2.女性	自分の出身先と、配偶者の父の出身先だから。人も好きだし、町も好き。どちらかに移り住みたいです。
2.女性	自分の地元に戻りたいから
2.女性	自分の両親の実家に近い県にいたいから。
1.男性	実家
2.女性	実家があり、仲のいい友人もみな東京都に住んでいるから
2.女性	実家がある
1.男性	実家から近いところに住みたい
1.男性	実家が近いから
1.男性	実家が静岡だから
2.女性	実家が福岡だが、行政の支援体制が神奈川に比べていい点と、ゆったり子育てができる空気があるから。
1.男性	実家だから
1.男性	実家に引っ越したいから
1.男性	実家に帰る為
2.女性	実家に戻りたい
1.男性	実家に戻る
2.女性	実家に戻る予定でいるため。跡取りなので。
2.女性	実家のある富山県が住み慣れていていいな、と思うから。
2.女性	実家の近くがいいから
2.女性	実家の近くに帰りたい
1.男性	実家の千葉県に土地があるから。
2.女性	実家近くに帰りたい
2.女性	主人の実家がある北海道へ移住してみたい希望があるので。
1.男性	首都圏から離れて余生を過ごしたい
2.女性	首都圏直下型地震が来ると怖い。
2.女性	周りが高齢化しているにもかかわらず、周囲の自然を破壊して宅地化しているのはおかしいと考えているから。
2.女性	住みたい場所があるから
1.男性	住みやすいから
2.女性	住民税が安そう。場所によっては負担が軽くなる制度がいろいろあるらしいと聞いた。勤務地は都心が主なので近い方がいい。
1.男性	出身地に帰郷するため。
2.女性	出身地に戻りたいので

2.女性	将来の夢があるから
2.女性	少しでも、福祉の充実しているところに行きたい
2.女性	新しい土地で、生活をスタートさせたいから。
2.女性	神奈川が実家ではない事と、とにかく住宅販売価格が高すぎる。
1.男性	神奈川である必要はないので、そう答えました。長すぎる通勤時間は無駄だと考えているので、職場が変われば住む場所も変えると思います。
2.女性	神奈川の子育て支援制度が悪い
2.女性	神奈川県では、●●と●●に住みましたが、どちらも好きではありません。周辺環境など、かなり不満です。また、●●の不祥事も数多く、治安にも非常に不安を感じます。年齢を重ねてこの県に住む続けるのは嫌です。
2.女性	神奈川県でも●●などは考えるが、基本的に伝統のある地域に住みたい
2.女性	神奈川県には転勤で引っ越してきたため、定年後は生まれ故郷に引っ越したい。
2.女性	神奈川県に比べて子育て世帯への支援が手厚いから(中学校給食や小児医療費助成制度への都の助成)。
1.男性	神奈川県に不満はないけれど日本で生活することに不満があるから
1.男性	神奈川県に魅力がない
2.女性	神奈川県は医療も子育て支援も公的学校教育も図書館も道路のデコボコも何も充実していない。結婚前まで東京都中央区に住んで長かったので、ものすごい格差を感じる。いまは夫の勤務先に近いので仕方なく住んでいるが、私としてはぜひ引っ越したい。
2.女性	神奈川県より色々充実してる
1.男性	親が住んでいる
2.女性	親が住んでいるから。どちらかが生まれ育った土地だから
2.女性	親の土地があるから。
2.女性	親元にいてあげたい
1.男性	親元に帰るため
1.男性	親族がいるため
1.男性	親類がいないから
1.男性	人が多すぎて生活しにくいから。物価が高いから。
2.女性	人が多すぎる
1.男性	人ごみの少ないところで、ゆっくり暮らしたいから
1.男性	人間の情がなく、交通ルールを無視する人間が多すぎる
1.男性	生まれ故郷だから
1.男性	生まれ故郷に帰りたいから
2.女性	税金、物価が愛知県より高く、一生住み続けるには給料面で不安があるため。
2.女性	税金が高いので、それなら他でもいいかと思います
2.女性	昔からそう思っている。海が好きだから。
2.女性	祖父と祖母がいるため。
1.男性	祖母が住んでいるから
2.女性	相手の男性の出身地
1.男性	他の県のほうが魅力的

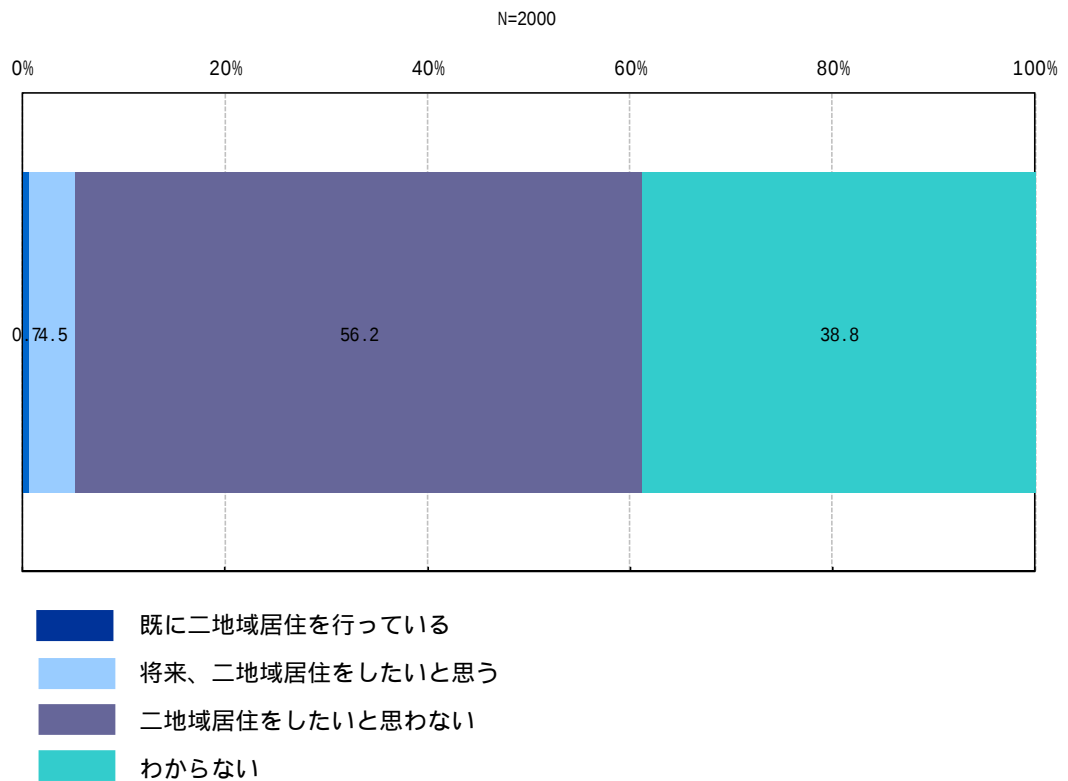
2.女性	待機児童が多く、求職中の身分では子供を保育園へ入れることは難しく、働きたくても働くことができない。近くに住んでいる夫の両親は働いており子育ての支援を頻繁に受けることは難しい。私は国家資格を持っており、その資格を生かして働きたいが夜勤などがあるため、両親の支援がなければそれも難しいと考える。結局頼れるのは自分の両親であり、実家の近くへ移住したいと考える。
1.男性	大学の時住んでいた新潟県にもう一度住んでみたい。
2.女性	旦那さんの実家があるから
1.男性	知見を広げる為
2.女性	地元がやっぱり居心地がいいので
1.男性	地元が好きだから
2.女性	地元だから
1.男性	地元ではないため
2.女性	地元で子育てをしたい
2.女性	地元で暮らしたい
2.女性	地元に戻りたい
1.男性	地元に戻りたい。ただし未だ見ぬ配偶者しだい？
2.女性	地元の北海道の方がのんびりとしているし、情の熱い人が多い。自然も多く安らげる
2.女性	長野県に住んでいる人が住みやすいと言っていたから。自然が豊かで、静かな環境が良い。
2.女性	通勤が不便
1.男性	田舎がそっちにあるから
1.男性	田舎が好きだから
2.女性	田舎だから
1.男性	田舎でゆっくり過ごしたい
1.男性	田舎にいたい
2.女性	都会での暮らしに疲れてきたことと、将来くるかもしれない首都直下型地震や南海トラフ地震なども怖いから。
1.男性	都会に住みたいから
2.女性	都心から遠いから
1.男性	都心で仕事する事が多いので、なるべく出勤にストレスがかからない方がいいから。
2.女性	都心にすみたいので。
2.女性	都心へ行くことが多いので、交通費を減らしたいと思う。
2.女性	都内の方がさまざまなところへ行きやすいから
2.女性	島根に実家があるので、いずれは帰るかもしれないため
2.女性	東京の方が学校数が多い。塾が多い。企業が多いから。
2.女性	東京の方が仕事が多い。通勤時間が短い方がよい
1.男性	東京の方が子育て世帯へのサポート制度が充実しているから。
2.女性	東京都で青春時代を過ごして友達も多いので。
1.男性	東京都に住むほうが精神的に安心するから。
2.女性	東京都は便利だから
2.女性	同じ場所に住み続けず、他の場所に移住して視野を広げること、自分や家族が将来や趣味についての考えを広げたい。
2.女性	特に愛着もなく、暮らしやすいわけでもないの。

2.女性	特に大きな理由はない。
1.男性	南房総が好きだから。
2.女性	日本の雑踏に疲れたから。
2.女性	日本より物価が安くて自然の多い場所でのんびりと暮らしたい。
2.女性	年を取るほど行動範囲が狭くても生活ができる場所のほうが暮らしやすいと思うから。病院や買い物などが徒歩や公共交通機関で済ませられるほうがいいと思う。自家用車に頼るのは、高齢になると限界がある。
2.女性	配偶者の実家があるから
2.女性	配偶者の実家が大阪にある
2.女性	配偶者の出身が千葉であり、自分自身も千葉に近い所の出身であるため。
1.男性	配偶者の母親が歳を召してきたので引っ越しを考えている。
1.男性	買い物やエンターテインメントの面で圧倒的に有利だから。
1.男性	漠然とした知らない土地で暮らしてみたいと思う感覚。神奈川県は便利な土地だが、人が多く自然を感じる場所が少ないから。
2.女性	夫の実家が群馬県だから。
2.女性	夫は長男なので定年退職後は県外の実家に戻ってあとを継ぐことが決まっている。
2.女性	夫婦ともに、都内で育ち実家も都内にあるので。
2.女性	夫婦ともに出身地が東京都であるため。
2.女性	夫婦の実家それぞれがある関西に戻るのが（いつか子どもを授かったときに）理想
2.女性	物価
2.女性	物価が安いから
2.女性	物価が高い
2.女性	物価が高い
1.男性	便利だから
1.男性	便利だから
2.女性	放射能が怖い。子どもにも悪影響があると思われるから。
1.男性	冒険心などが大きい
2.女性	北海道がすきなので。野球が見たいので。
1.男性	北海道に住んでみたいから
1.男性	北海道に憧れがあるから
2.女性	魅力的な都道府県があれば
2.女性	目指してるお仕事の、神奈川でも都内へ出れるが...時間が意外とかかるので、東京に引っ越したい。
2.女性	利便性
1.男性	両親の近いところ
2.女性	老いてからは、伝統文化が根付いた場所に住みたい。
2.女性	老後は、ゆっくりと過ごしたいので。
2.女性	老後は夫の実家で過ごすため。

(5) 今後の二地域居住の意向

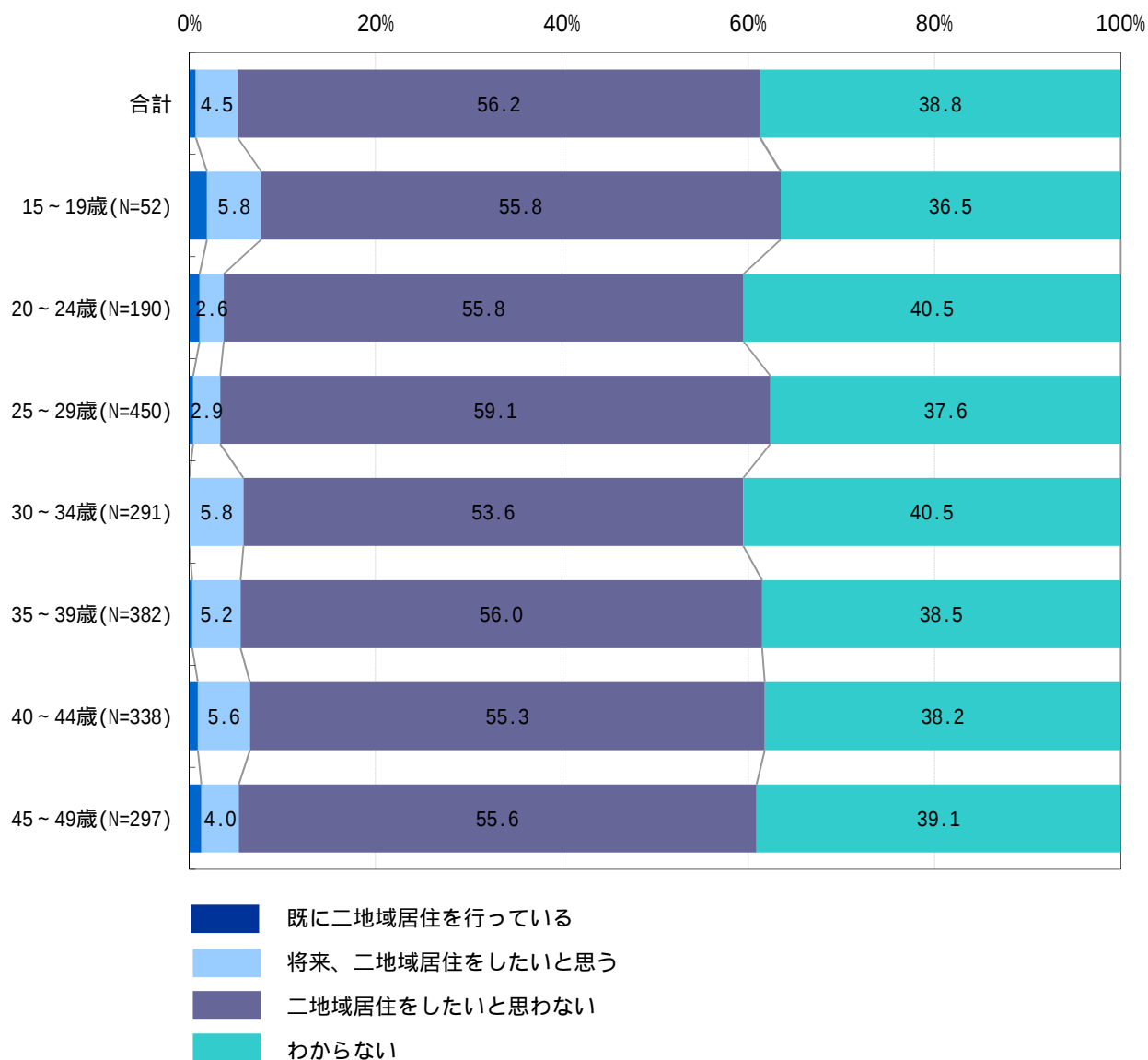
今後、二地域居住（ ）をしたいとかどうかについて、「二地域居住をしたいと思わない」と回答した者が最も多く、56.2%であった。

一方で、「既に二地域居住を行っている」は 0.7%、「将来、二地域居住をしたいと思う」は 4.5%、「わからない」は 38.8%だった。



< 年代別 >

今後、二地域居住をしたいと思いますか。二地域居住をしたいと思う場合は、居住先候補の都道府県についてもお知らせください。（ひとつだけ）



(6) 主な二地域居住先

< 既に二地域居住を行っていると回答した方 >

都道府県	件数
静岡県	1
茨城県	1
埼玉県	1
千葉県	1
東京都	2
神奈川県	1
静岡県	1
長野県	2
愛知県	1
沖縄県	1
海外	1

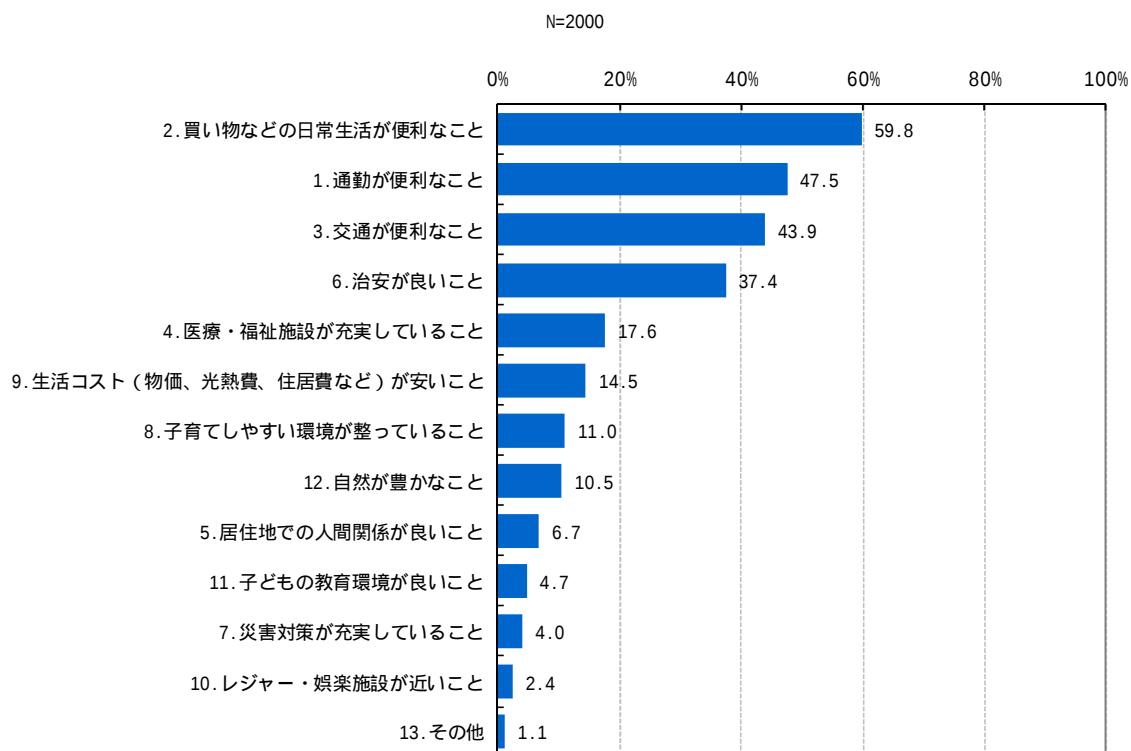
< 将来、二地域居住をしたいと思うと回答した方 >

都道府県	件数	都道府県	件数
北海道	2	岐阜県	2
北海道 沖縄	2	静岡県	6
北海道、福岡、大阪、沖縄	1	三重県	1
仙台市、宮崎市	1	京都府	1
山形県	1	大阪府	2
福島県	2	奈良県	1
長野 北海道	1	岡山県	1
長野・群馬	1	山口県	1
長野や北海道	1	高知県	1
群馬県	1	福岡県	3
群馬、山梨、静岡、千葉	1	福岡県、海外	1
埼玉県	2	鹿児島県	1
東京都	11	沖縄県	6
東京都、神奈川県	1	アメリカ合衆国	1
神奈川県	8	オーストラリア	1
神奈川 沖縄	1	ハワイ	1
神奈川県内、どちらかの両親と	1	マレーシア	1
●●市	1	マレーシア・ペナン島	1
茅ヶ崎	1	わからない	1
新潟県	3	海外	3
山梨県	3	環境が整い適当な場所があれば	1
長野県	5	現時点では特になし	1

(7) 居住地の選択で重要と考える条件

居住地の選択で重要と考える条件については、「買い物などの日常生活が便利なこと」が59.8%と最も多く、次いで「通勤が便利なこと」「交通が便利なこと」「治安が良いこと」と続いている。

図表 居住地の選択で重要と考える条件

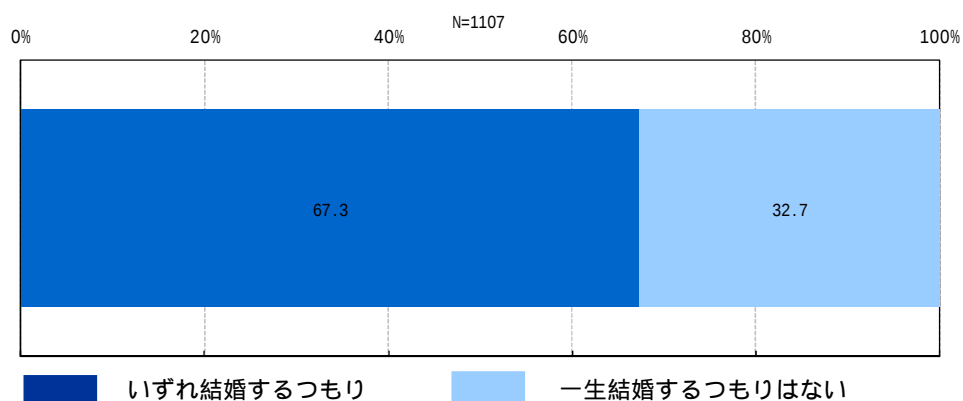


【2.結婚】

（１）結婚意向

回答者のうち、「いずれ結婚するつもり」と考える方に近いと答えた人は 67.3%で、「一生結婚するつもりはない」と答えた人は 32.7%であった。

図表 回答者の結婚意向

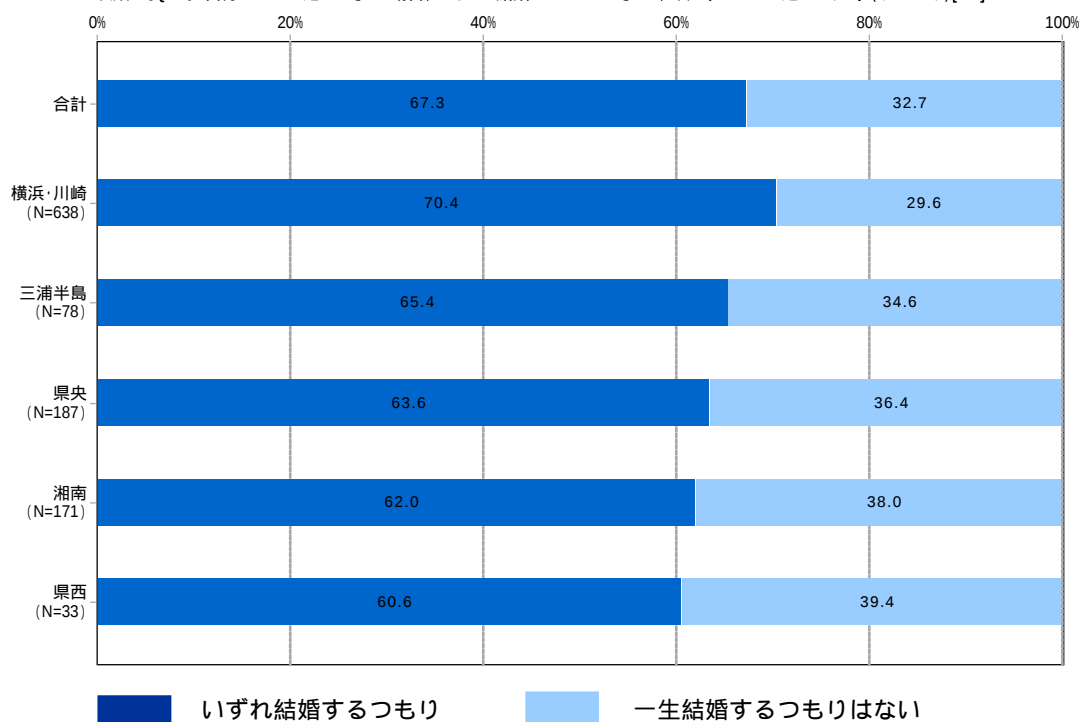


<地域別>

地域別に見ると、横浜・川崎地域が 70.4%と最も高く、県西地域は 60.6%と低くなっている。

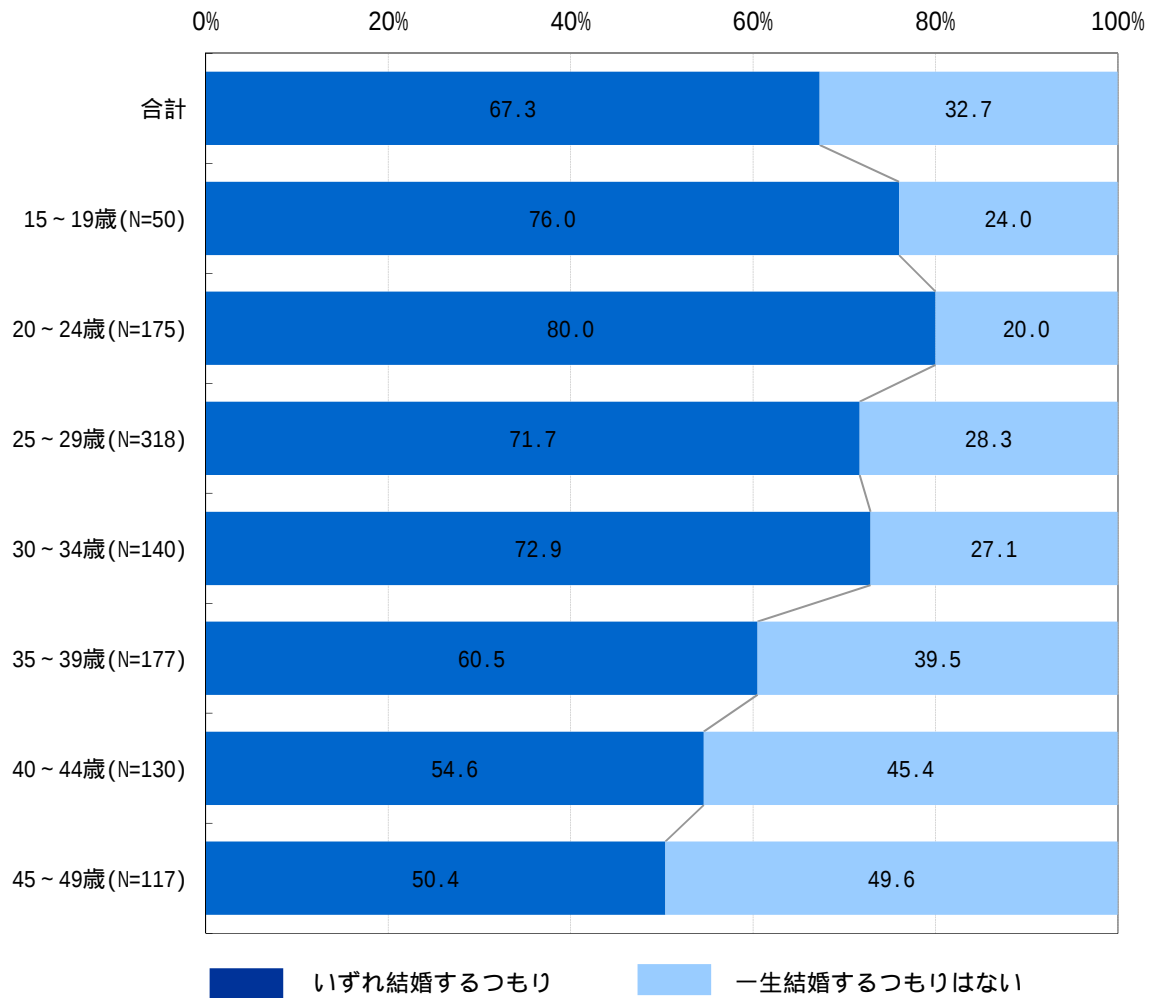
表例：5地域政策圏

表頭：[Q18]：自分の一生を通じて考えた場合、あなたの結婚についてのお考えは、次のうちどちらに近いですか。(ひとつだけ)[SA]



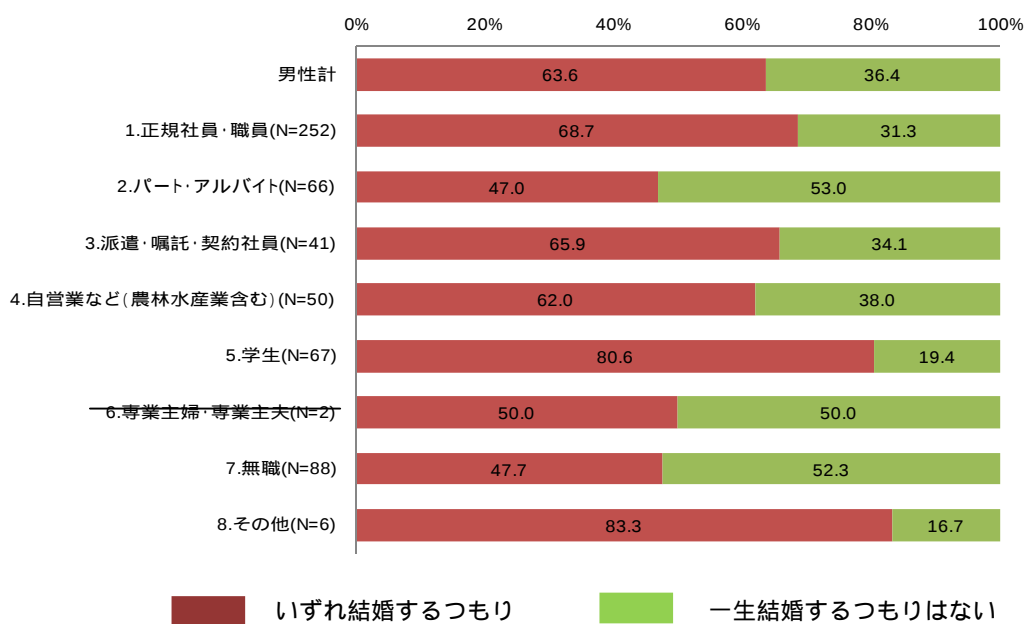
< 年代別 >

自分の一生を通じて考えた場合、あなたの結婚についてのお考えは、次のうちどちらに近いですか。(ひとつだけ)



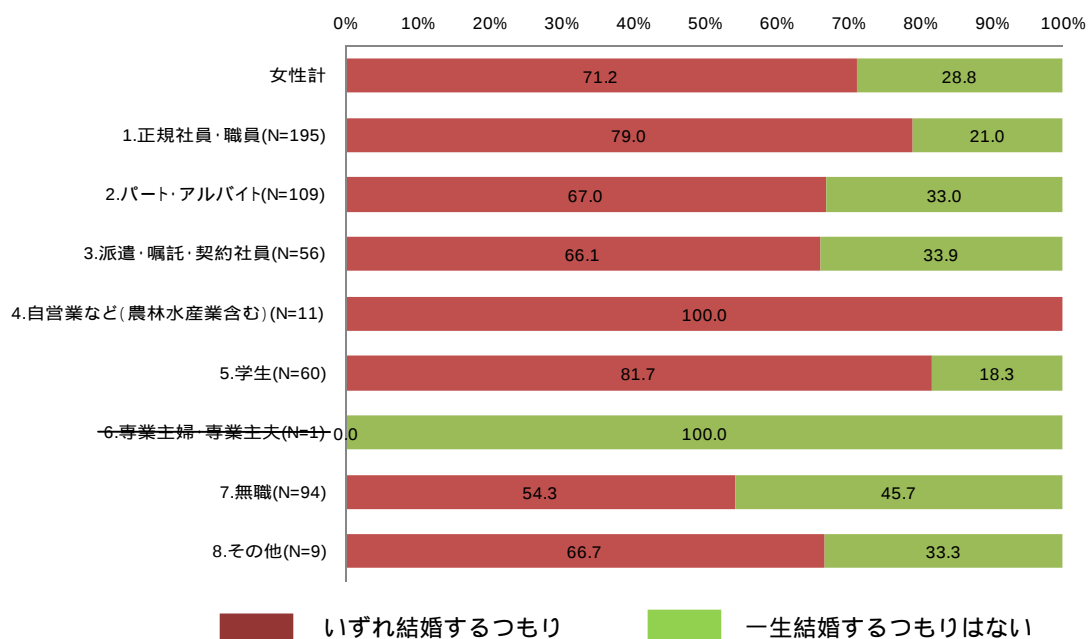
< 職業別 男性 >

職業別にみると、男性の場合、2「一生結婚するつもりはない」と回答した者の割合は、パート・アルバイトの者で最も高かった。



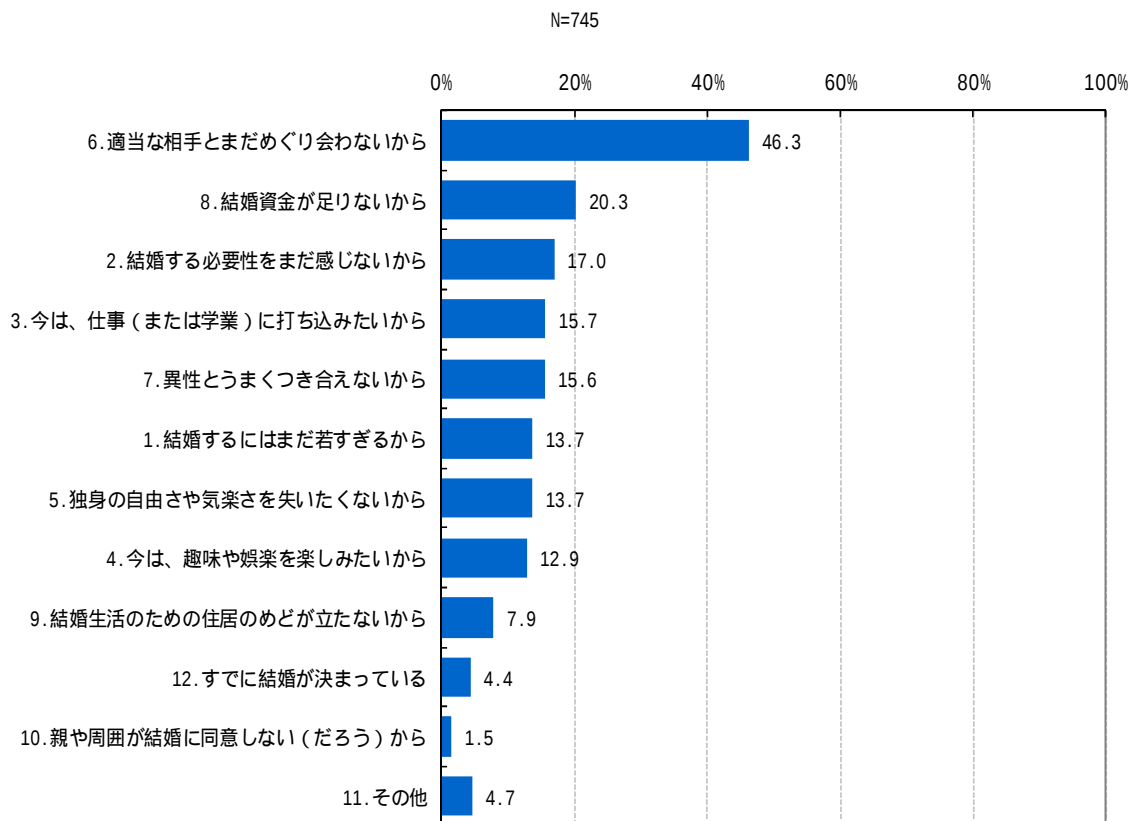
< 職業別 女性 >

職業別にみると、女性の場合、2「一生結婚するつもりはない」と回答した者はパート・アルバイトや派遣・嘱託・契約社員の者が多かった。



(2) 独身でいる理由 (3 つまで選択)

前問で 1 「いずれ結婚するつもり」と回答した者のうち、現在独身でいる理由は「適当な相手とまだめぐり会わないから」とする回答が最も多く、2 番目に「結婚資金が足りないから」、3 番目に「結婚する必要性をまだ感じないから」とする理由が多かった。

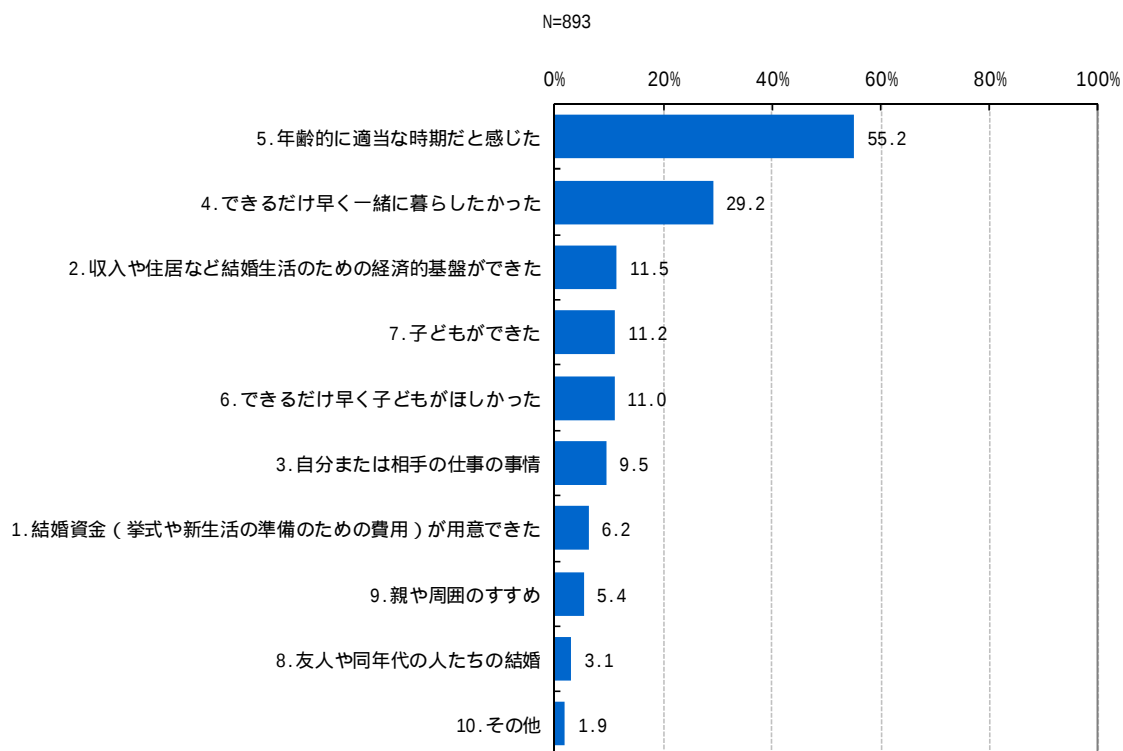


(3) 独身でいる理由 < 自由記載 >

性別	回答内容
1.男性	現在の相手との付き合いがそこまで長くないから
2.女性	結婚できる状態にないから
1.男性	結婚したいが相手が見つからない
1.男性	バイトだから
2.女性	相手がいないから
2.女性	相手からそういう話が出ないから
2.女性	職歴年数を稼ぐ必要がある為
2.女性	プロポーズされてないから
2.女性	プロポーズされない
2.女性	理想が高すぎるのか、相手が見つからない
1.男性	良い相手がいない
1.男性	自分が抱えているリスクを相手と共有したいと思わないから
1.男性	病気療養中のため
1.男性	なんとなく
1.男性	生活力がないから
1.男性	無職だから
2.女性	自分の親の問題
1.男性	離婚した
1.男性	自分に自信が持てないから。
2.女性	相手の仕事の問題
1.男性	障害を負ってしまい、そんな自分が受け入れられないからかな？
1.男性	離婚後まだ時間が経っていない
2.女性	特に理由はない
1.男性	特にない
1.男性	不安定な雇用（パート）のため異性との付き合いは躊躇してしまう
2.女性	相手次第
2.女性	交際している相手とまだ付き合い期間が短いから
2.女性	一旦婚約破棄されたから。
2.女性	友達以上恋人未満なので
1.男性	生活資金がない
2.女性	籍を入れる必要性がわからない
2.女性	病気
2.女性	相手次第
2.女性	相手にその気がないから
1.男性	就職してから。

(4) 結婚を決めたきっかけ (2 つまで選択)

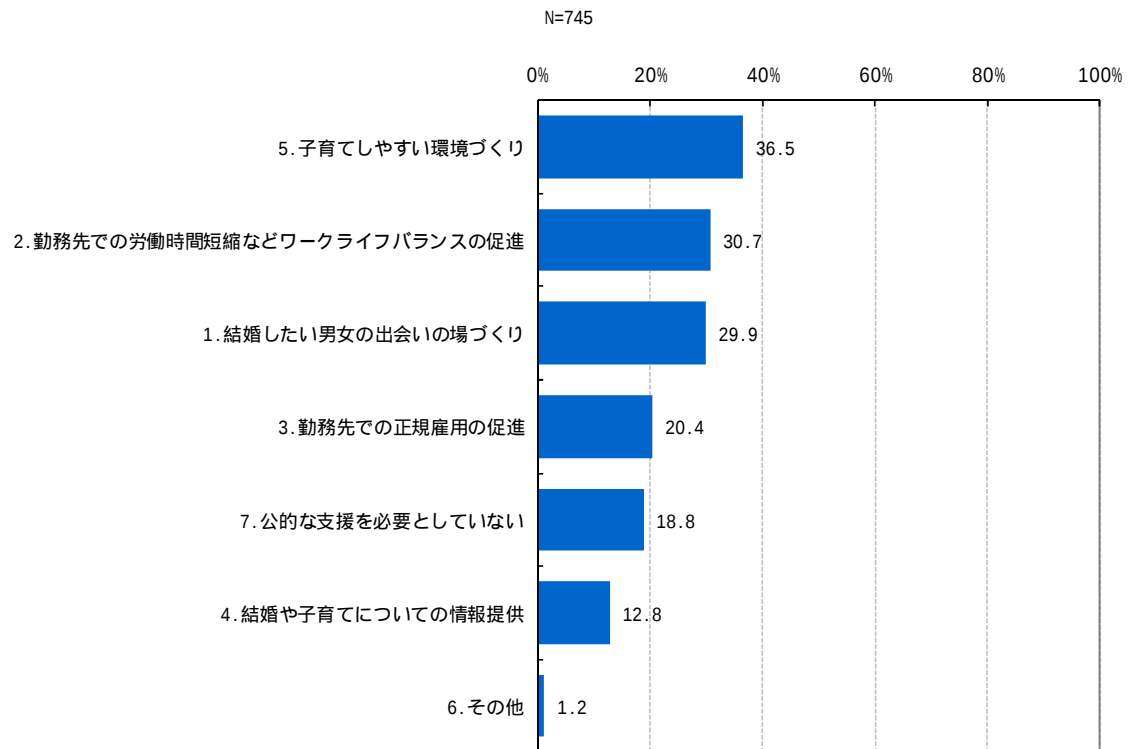
「結婚している」と回答した者のうち、結婚を決めたきっかけは「年齢的に適当な時期だと感じた」が 55.2%と最も多く、2 番目に「できるだけ早く一緒に暮らしたかった」と回答した者が多かった。



(5) 結婚にあたって必要とする公的な支援 (2 つまで選択)

「いずれ結婚するつもり」と回答した者のうち、結婚に当たって必要とする公的な支援として「子育てしやすい環境づくり」と回答した者が最も多く 36.5%であった。

「勤務先での労働時間短縮などワークライフバランスの促進」を必要な公的支援として回答した者は 30.7%であった。



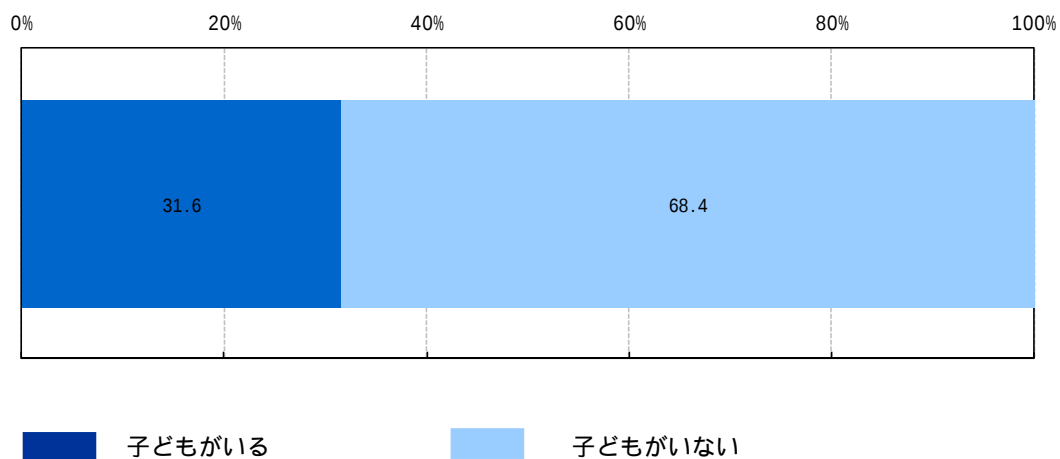
< 年代別 >

	合計	結婚したい男女の出会いの場づくり	勤務先での労働時間短縮などワークライフバランスの促進	勤務先での正規雇用の促進	結婚や子育てについての情報提供	子育てしやすい環境づくり	その他	公的な支援を必要としていない
合計	745	29.9	30.7	20.4	12.8	36.5	1.2	18.8
15 ～ 19 歳 (N=38)	38	23.7	31.6	7.9	13.2	57.9	0.0	18.4
20 ～ 24 歳 (N=140)	140	25.0	30.0	20.7	16.4	49.3	0.7	14.3
25 ～ 29 歳 (N=228)	228	29.4	32.9	23.2	12.7	38.2	2.2	16.7
30 ～ 34 歳 (N=102)	102	26.5	32.4	18.6	6.9	35.3	0.0	25.5
35 ～ 39 歳 (N=107)	107	35.5	30.8	18.7	16.8	27.1	2.8	16.8
40 ～ 44 歳 (N=71)	71	38.0	22.5	22.5	11.3	23.9	0.0	22.5
45 ～ 49 歳 (N=59)	59	33.9	30.5	20.3	8.5	20.3	0.0	25.4

【3.出産・子育て】

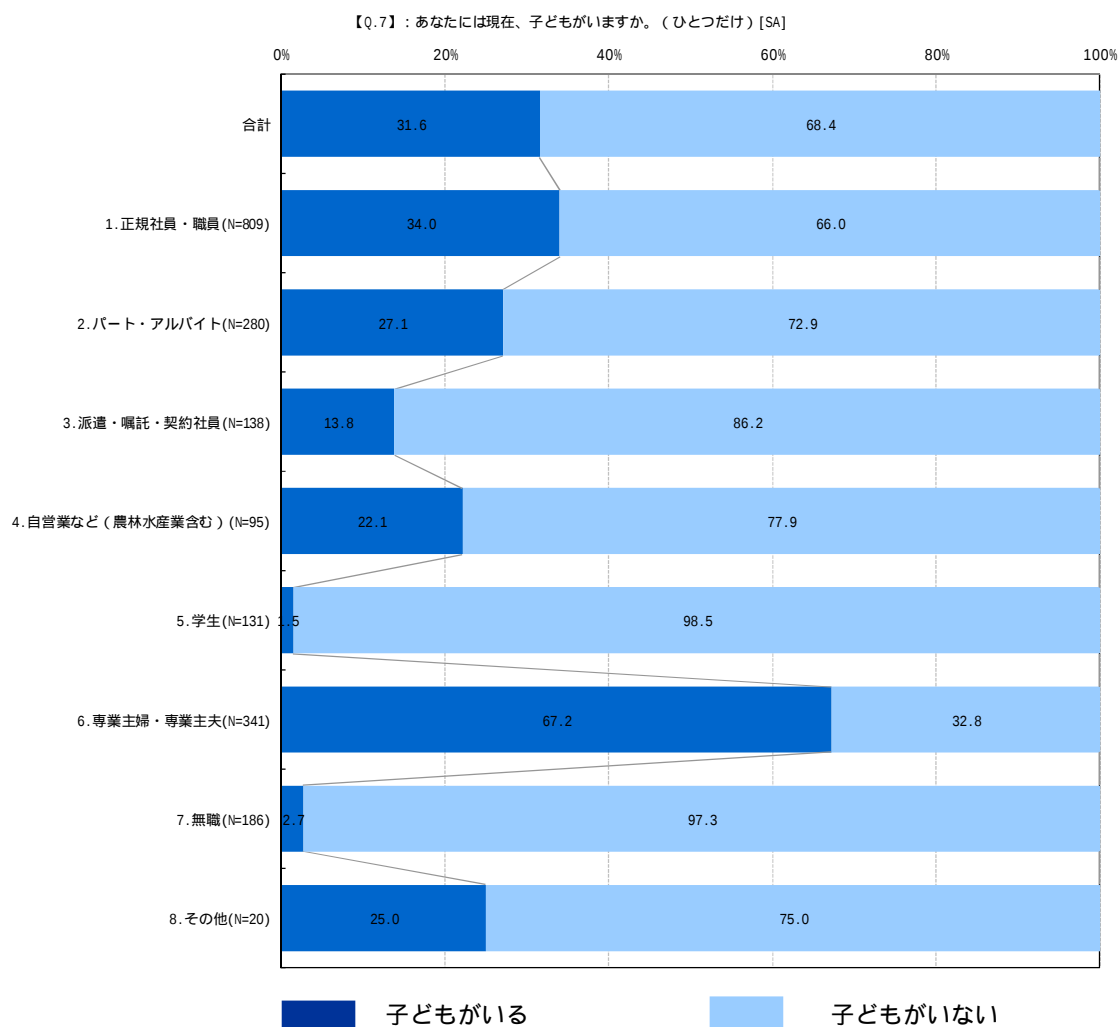
（１）子どもの有無

回答者のうち、68.4%が「子どもはいない」と回答している。



< 職業別 >

職業別にみると専業主婦・主夫の「子どもがいる」割合が67.2%と最も高くなっている。

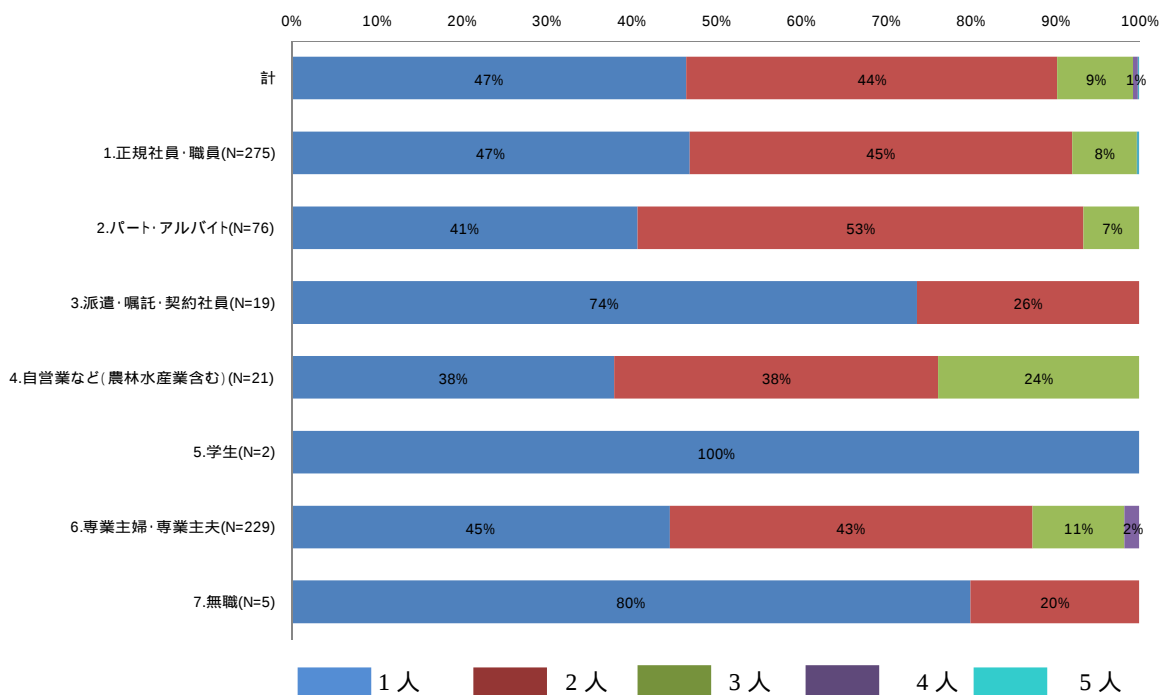


(2) 子どもの数

< 職業別 >

「子どもがいる」と回答した者のうち、子ども数は職業別にみると、1 人と回答した割合は、派遣・嘱託・契約社員（74%）および無職（80%）の者が最も多かった。

一方で、子どもが 3 人いると回答した割合は、自営業などの者が最も高く、24%となっている。



< 年収別 >

年収別にみると、回答者と配偶者の年収を合算した金額が、200 万円台では 2 人以上の子どもを持つ割合が約 4 割にとどまっているのに対して、900 万円台では 2 人以上の子どもを持つ割合が約 6 割となっている。

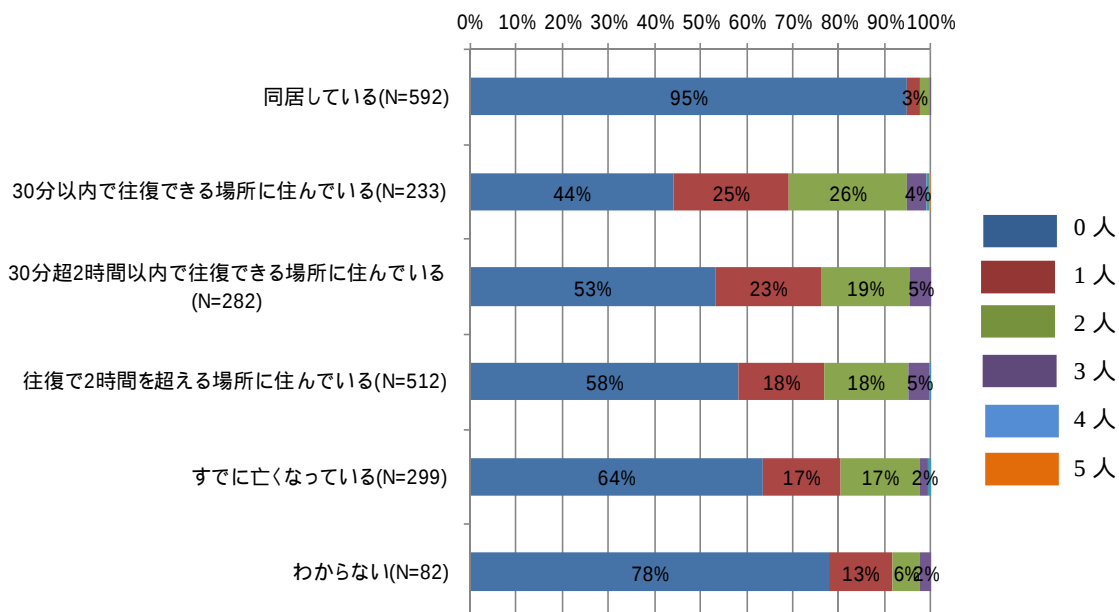
このように、200 万円台から 900 万円台については、収入が高いほど 2 人以上の子どもを持つ割合が高くなっている。



< 父親の居住場所別 >

父親の居住場所別に見ると、子どもが 1 人以上いる人の割合は父親が「30 分以内に往復できる場所に住んでいる」と回答した者で最も高く、別居している場合には距離が近いほど子どもがいる、かつ子どもの数も多くなっていることがわかる。

一方で「同居している」と答えた者の 95%が子どもがいないと回答している。

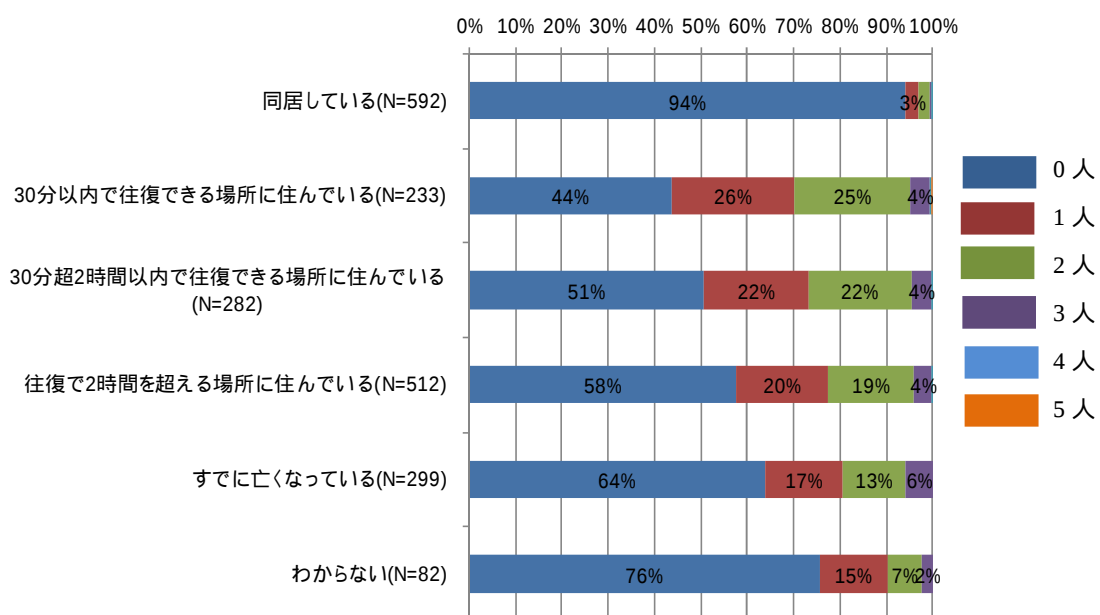


< 母親の居住場所別 >

母親の居住場所別に見ると、子どもが 1 人以上いる人の割合は、父親の居住場所別と同様に、「30 分以内に往復できる場所に住んでいる」と回答した者で最も高く、別居している場合には距離が近いほど子どもがいる、かつ子どもの数も多くなっていることがわかる。

一方で「同居している」と答えた者の 94%が子どもはいないと回答している。

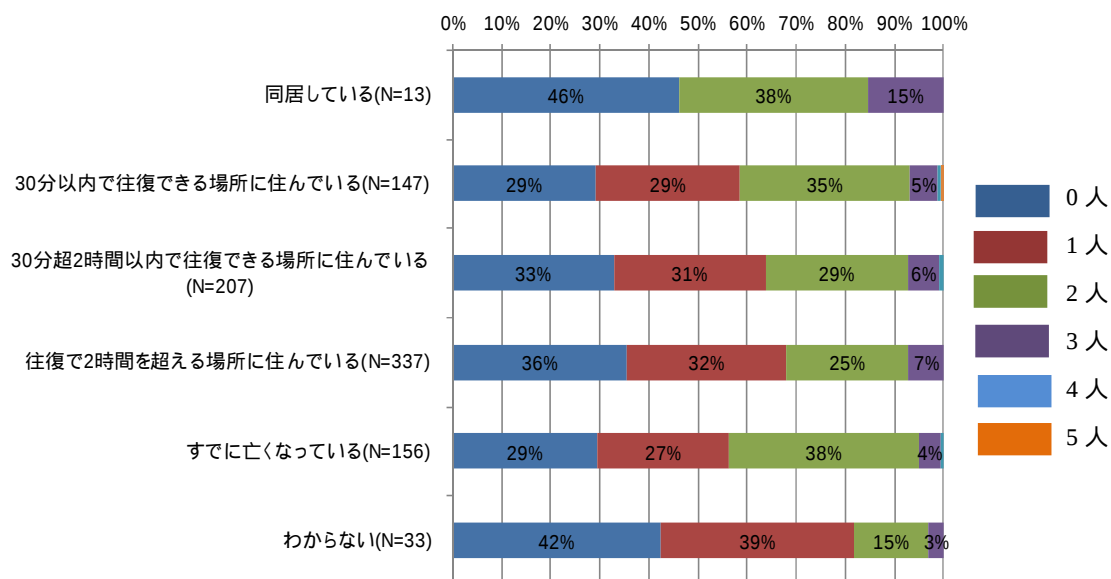
父親の居住場所別の結果を踏まえると、両親、あるいは両親いずれかと別居で、かつ近くに居住している状況であるほど、子どもの数が多いということが分かる。



< 配偶者の父親の居住場所別 >

子どもの数を配偶者の父親の居住場所別にみると、1人以上の子どもがいると回答した者の割合は距離が遠くなるほどに少なくなっていることが分かる。

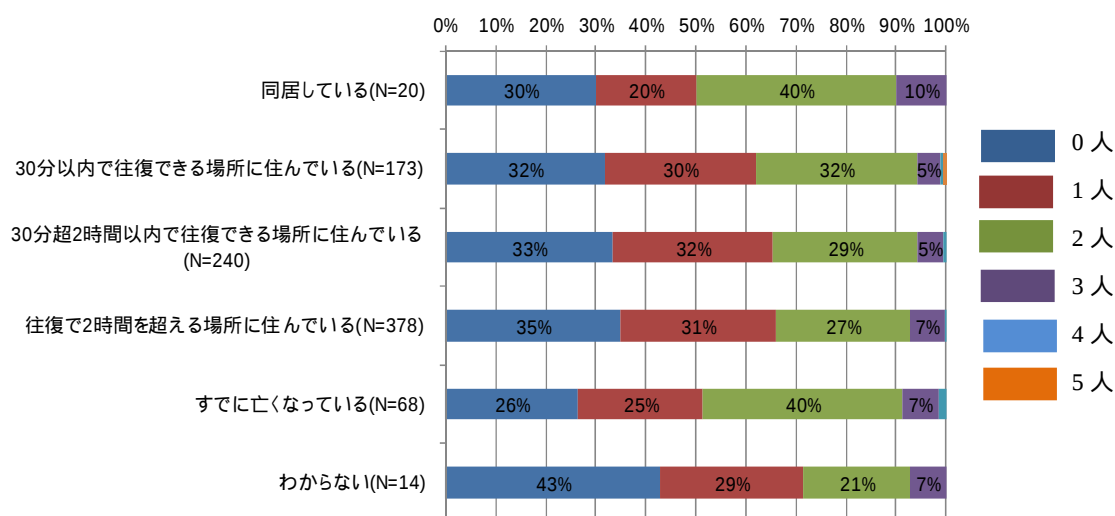
また、子どもの数が2人と答えた者の割合が最も少なかったのは、配偶者の父親との距離が「往復で2時間を超える場所に住んでいる」場合であり、25%であった。



< 配偶者の母親の居住場所別 >

子どもの数を配偶者の母親の居住場所別にみると、父親の場合と同様、1人以上の子どもがいると回答した者の割合は距離が遠くなるほどに少なくなっていることが分かる。

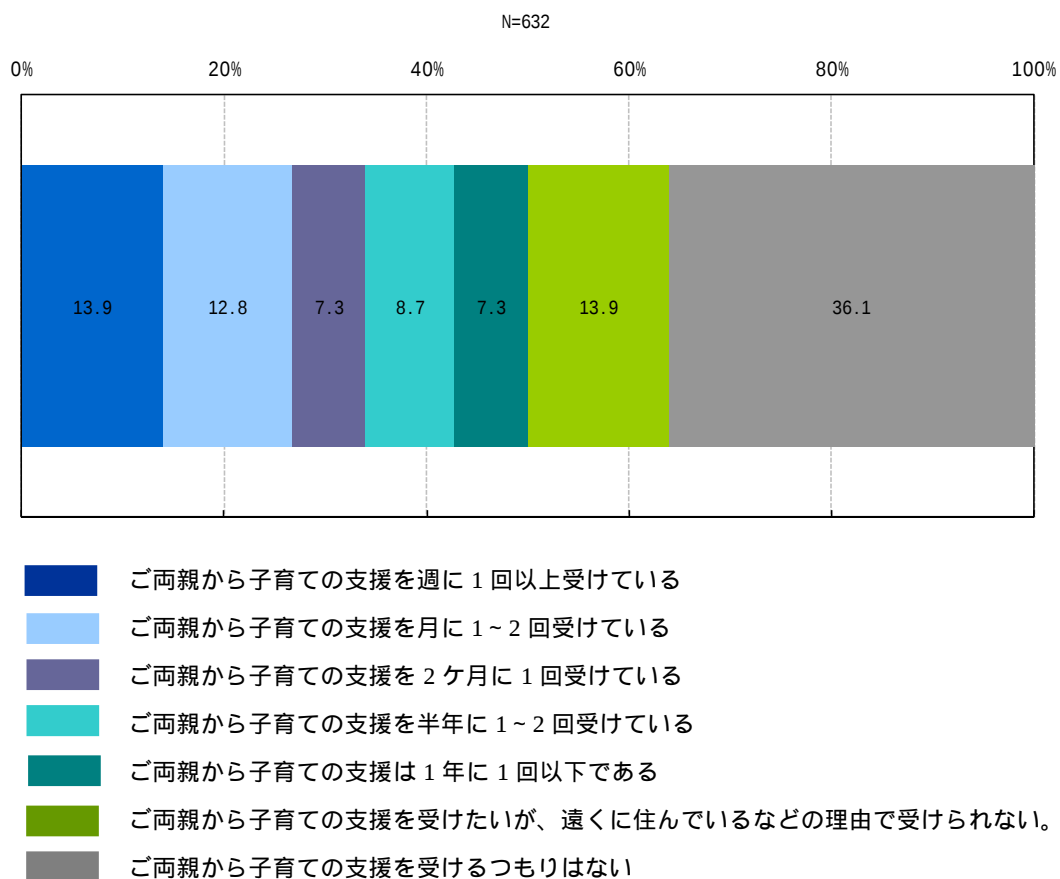
また、子どもの数が2人と答えた者の割合が少なかったのは、配偶者の母親との距離が「往復で2時間を超える場所に住んでいる」(27%)あるいは「わからない」(21%)場合であった。



(3) 両親からの子育ての支援の有無と状況

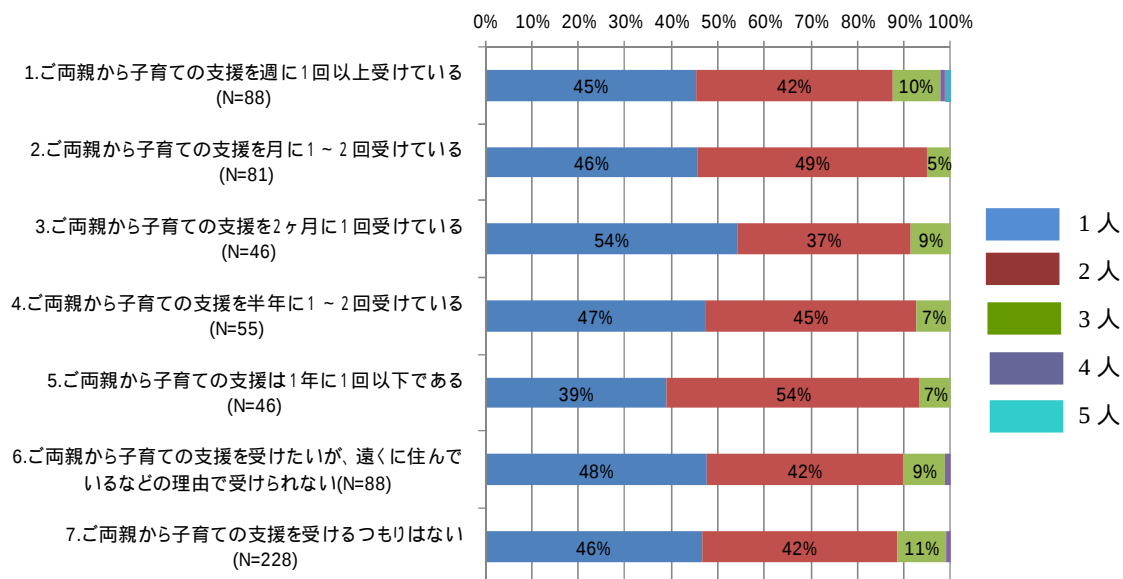
「子どもがいる」と回答した者のうち、両親からの子育ての支援について、「ご両親（配偶者の父母含む。以下同様）から支援（金銭的支援を除く。以下同様。）を受けるつもりはない」と答えた者が最も多く、36.1%であった。

「ご両親から子育ての支援を週に1回以上受けている」と回答した者は13.9%で、「ご両親からの子育ての支援を受けたいが、遠くに住んでいるなどの理由で受けられない」と回答した者が13.9%であった。

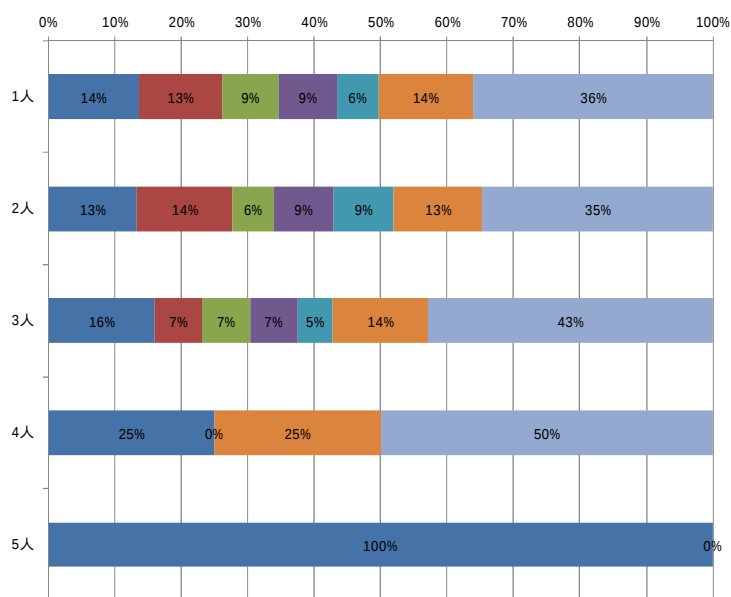


< 両親からの支援と子どもの数 >

子どもの数を両親（配偶者の父母含む）による子育ての支援（金銭的な支援を除く）の状況別に見ると、子どもの数が1人の割合が最も高かったのは3「ご両親からの子育ての支援を2カ月に1回受けている」者であった。



参考：図表 子どもの数別 両親の支援

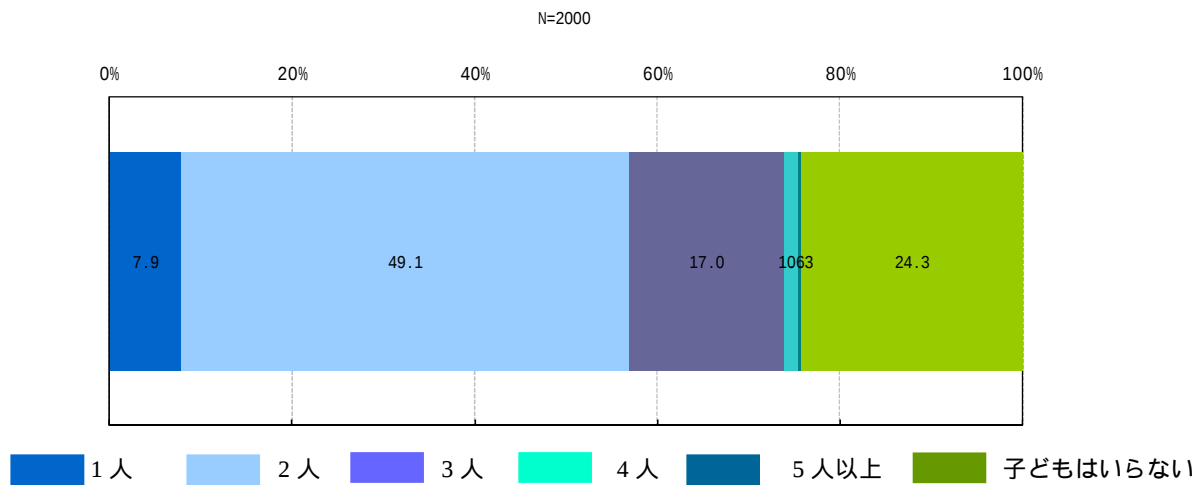


- ご両親から子育ての支援を週に1回以上受けている
- ご両親から子育ての支援を月に1～2回受けている
- ご両親から子育ての支援を2ヶ月に1回受けている
- ご両親から子育ての支援を半年に1～2回受けている
- ご両親から子育ての支援は1年に1回以下である
- ご両親から子育ての支援を受けたいが、遠くに住んでいるなどの理由で受けられない。
- ご両親から子育ての支援を受けるつもりはない

(4) 理想的な子どもの人数

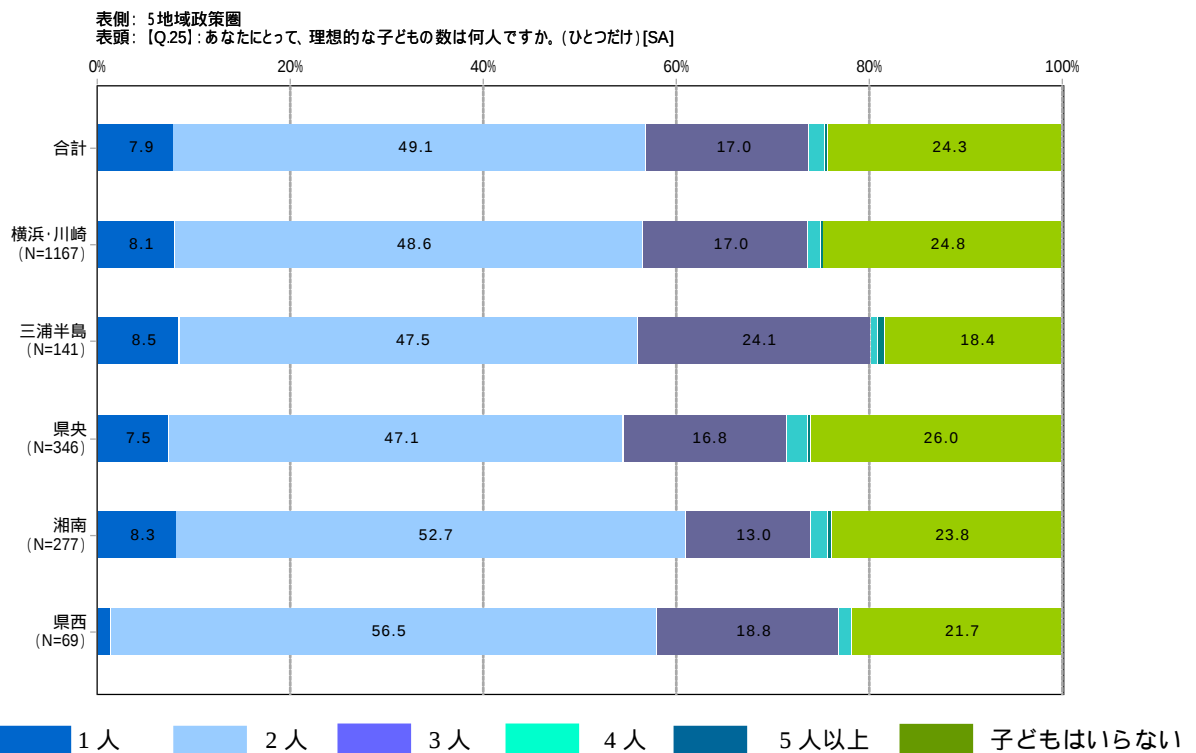
49 歳以下の回答者のうち、理想的な子どもの人数は 2 人と答えた者が 49.1%と最も多く、 3 人と答えた者は 17.0%であった。

「子どもはいらない」と回答した者は 24.3%であった。



< 地域別 >

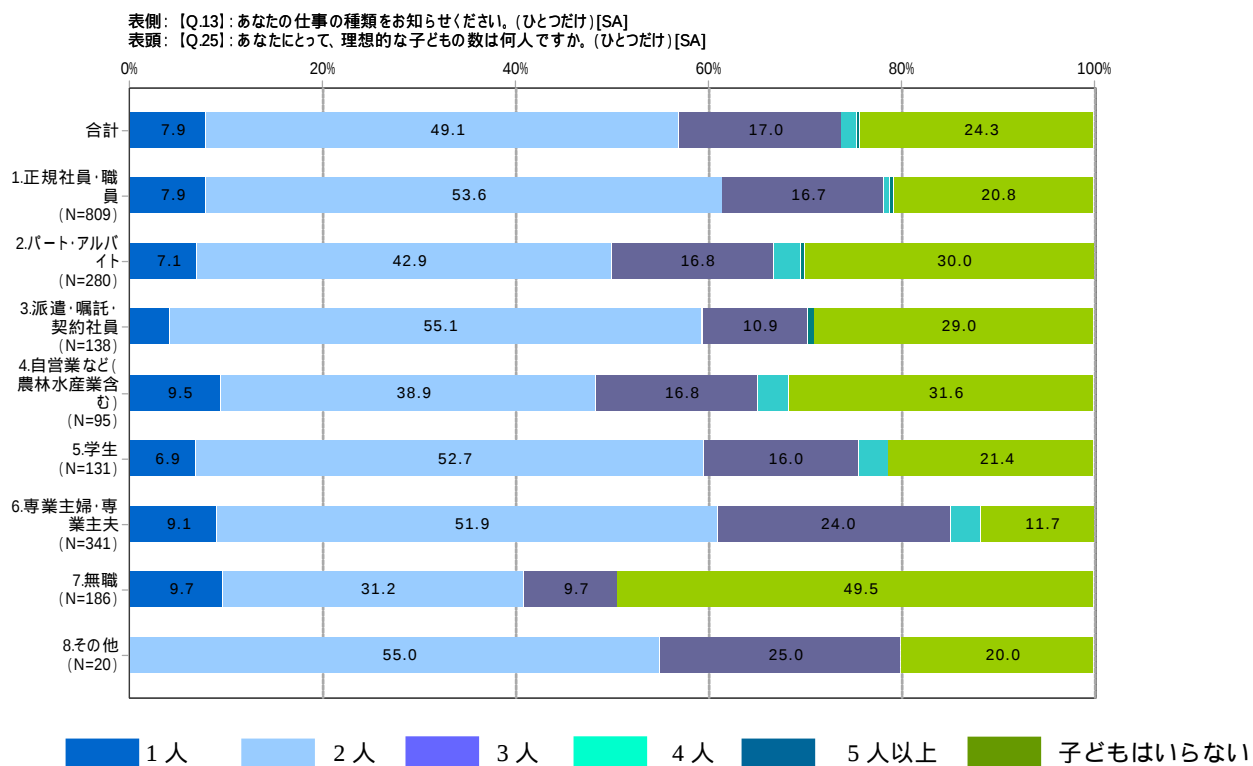
地域別に見ると、三浦半島地域が 3 人以上の子供を望む割合が最も高く、「子どもはいらない」という回答が最も低くなっている。



< 職業別 >

職業別にみると、理想とする子どもの数として 3 人と回答した者の割合は、専業主夫・主婦で高く（24.0％）、2 人と回答した者の割合は正規社員・職員で高かった（53.6％）。

また、「子どもはいらない」と回答した割合は、無職の者（49.5％）、自営業など（31.6％）、パート・アルバイト（30.0％）でおおむね高かった。

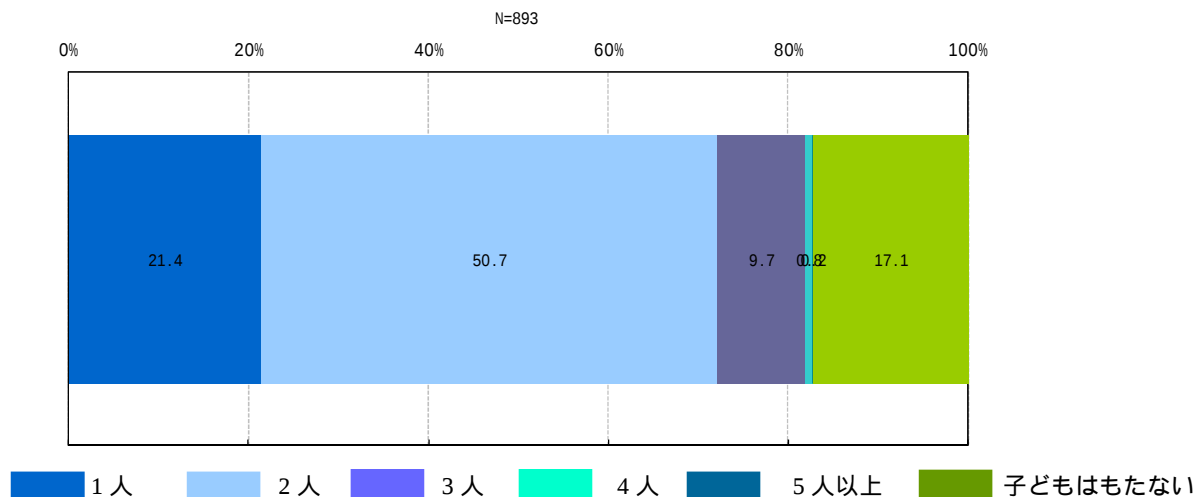


(5) 現実的な子どもの予定人数

「結婚している」と回答した者のうち、現実的な子どもの予定人数（現在の子ども含む）は、2人と回答した者が50.7%で最も多く、1人と回答した者が21.4%であった。

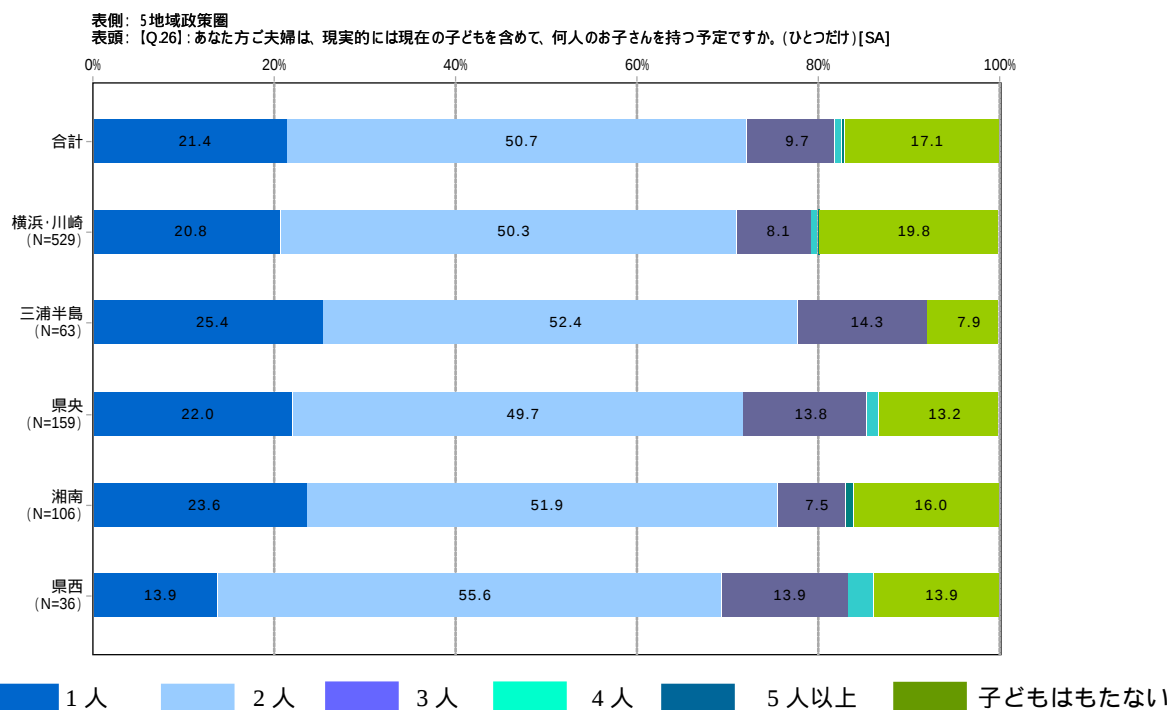
1人と回答した者は21.4%で、理想的な子どもの人数を1人と回答した者より割合は高くなった。

図表 現実的な子どもの予定人数



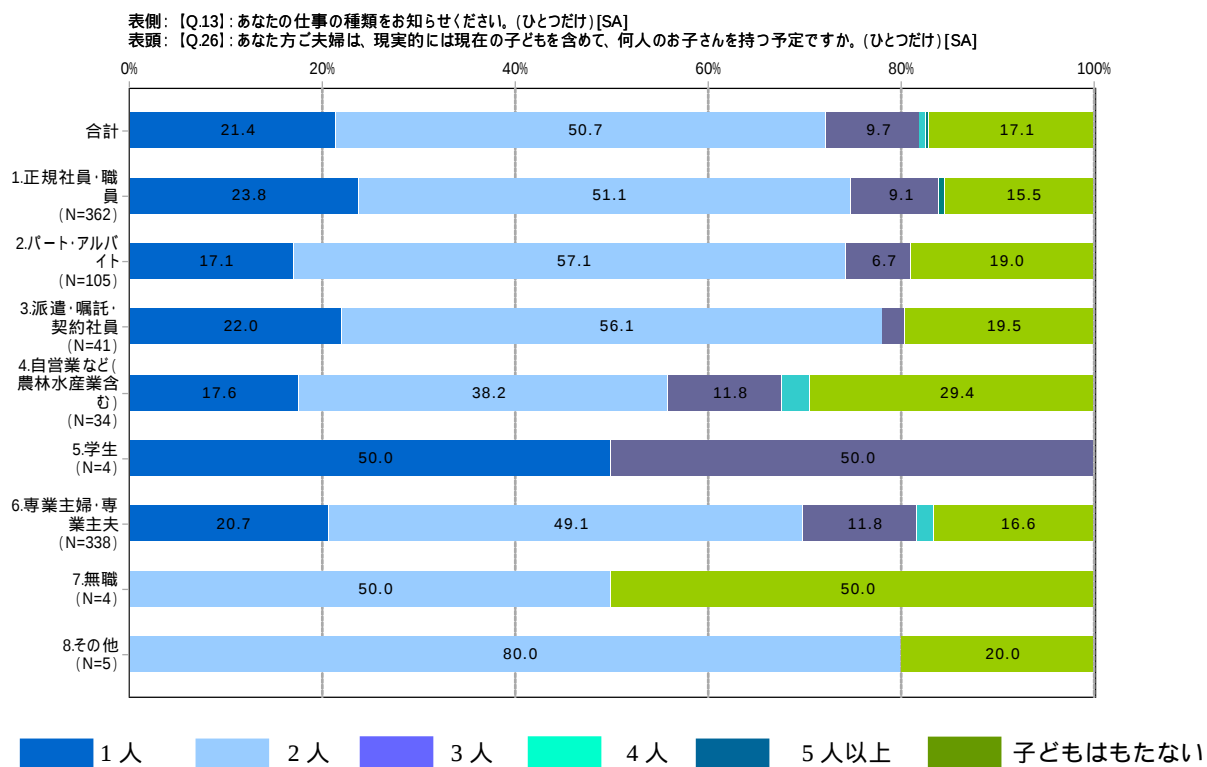
< 地域別 >

地域別に見ると、三浦半島地域で2人以下の子どもを予定する割合が最も高く、理想の子どもの数とのギャップも大きくなっている。



< 職業別 >

いずれの職業でも、理想とする子どもの数とのギャップがあるが、現実的な子どもの予定数として、5「子どもを持たない」の割合が29.4%と、自営業のもので平均より高かった。

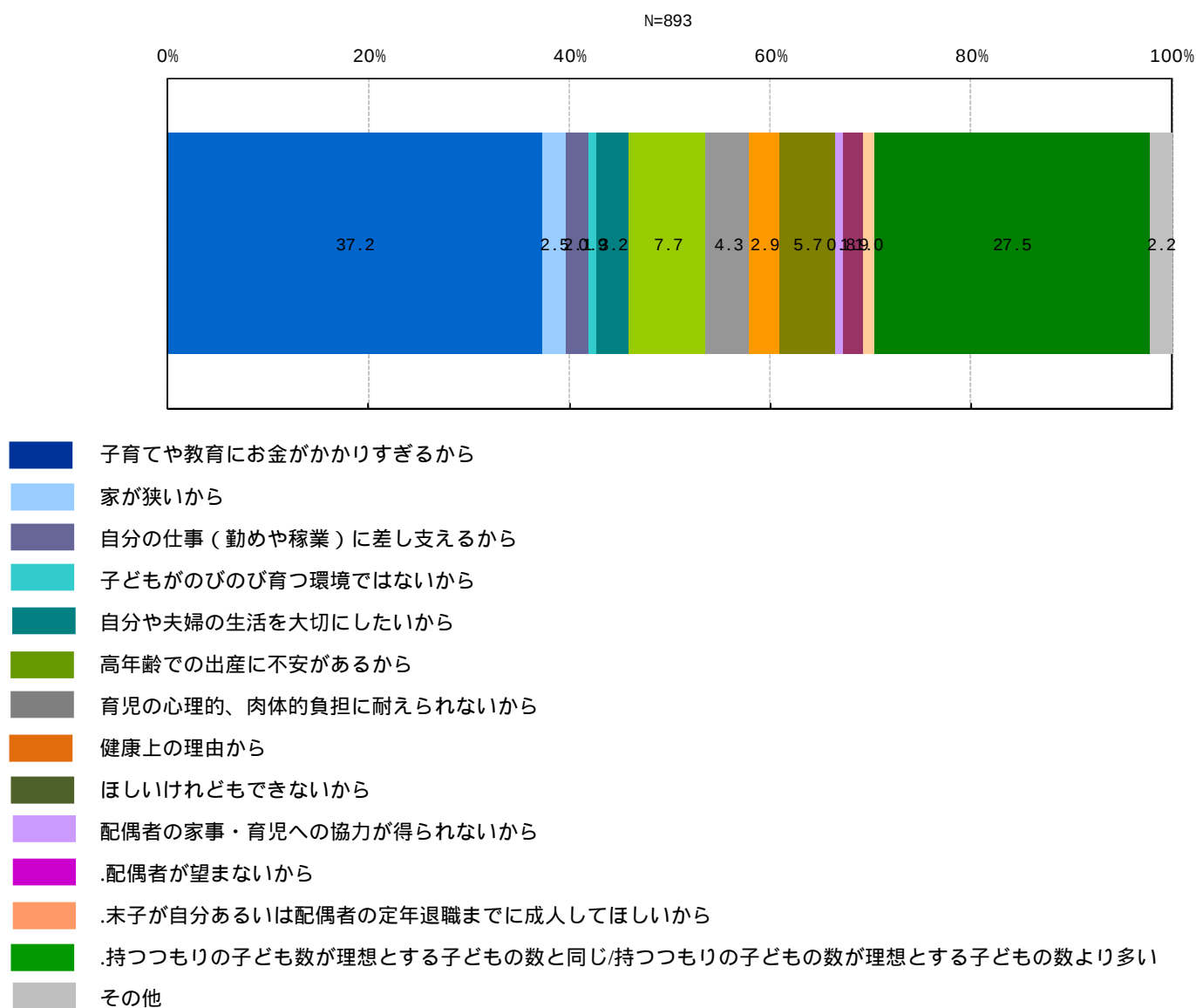


(6) 子どもの予定数が、理想とする子どもの数より少ない最も重要な理由

理想とする子どもの数より現実的な子どもの予定数が少ない最も重要な理由は、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」と回答した者が 37.2%と最も多かった。

一方で、「持つつもり子どもの数が理想とする子どもの数と同じ/持つつもりの子どもの数が理想とする子どもの数より多い」と答えた者は 27.5%であった。

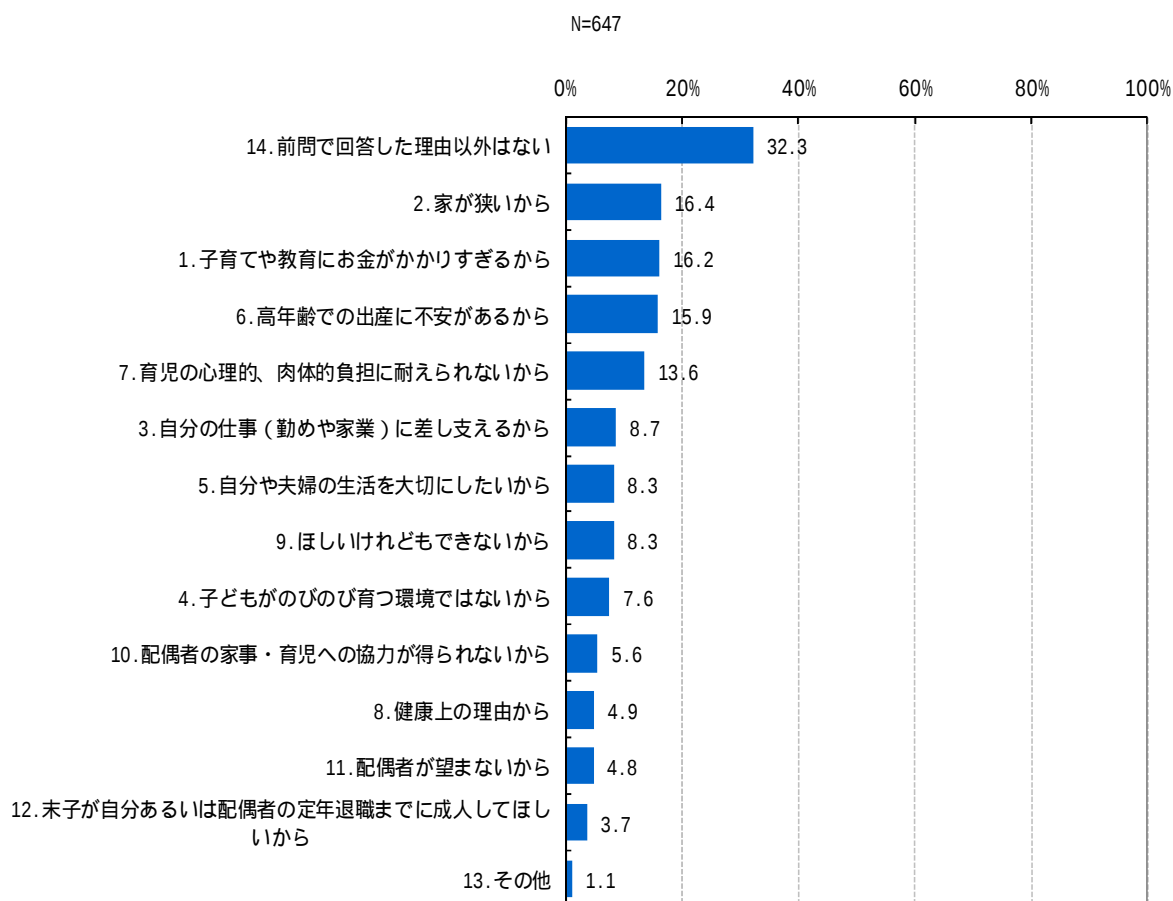
現実的に子どもが少ない最も重要な理由として「高年齢での出産に不安があるから」と答えた者は 7.7%であった。



(7) 前問の他にあげられる理由 (いくつかでも)

前問で「持つつもり子どもの数が理想とする子どもの数と同じ/持つつもりの子どもの数が理想とする子どもの数より多い」以外を回答した者のうち、他の重要な理由に該当するものとして、「前問で回答した理由以外はない」と答える者が 32.3%と最も多かった。

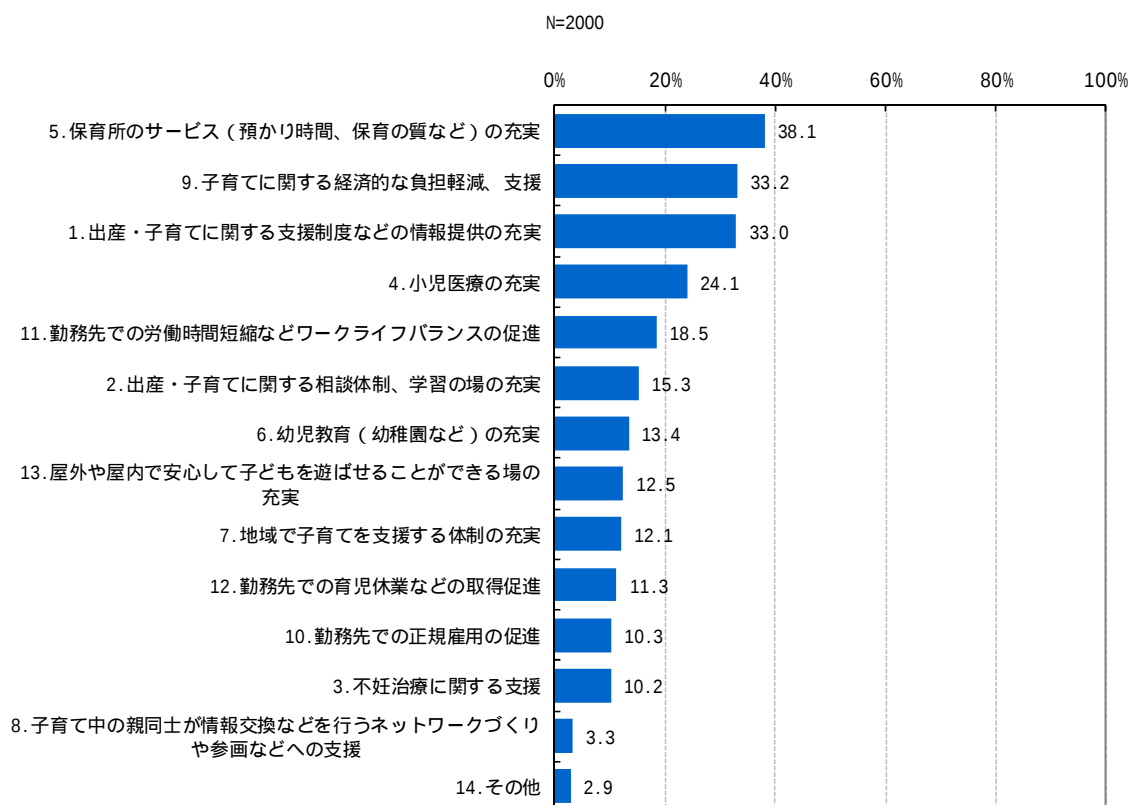
その他の理由として、「家が狭いから」(16.4%)、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」(16.2%)、「高年齢での出産に不安があるから」(15.9%)という順に回答した者が多かった。



(8) 出産・子育てにあたって必要と考える公的な支援 (3 つまで選択)

回答者のうち、出産・子育て (小学校就学前まで) で必要と考える公的な支援について、「保育所のサービス (預かり時間、保育の質など) の充実」と答えた者が最も多く、38.1%であった。

次に回答者が多かったのは「子育てに関する経済的な負担軽減、支援」(33.2%)、「出産・子育てに関する支援制度等の情報提供の充実」(33.0%)である。

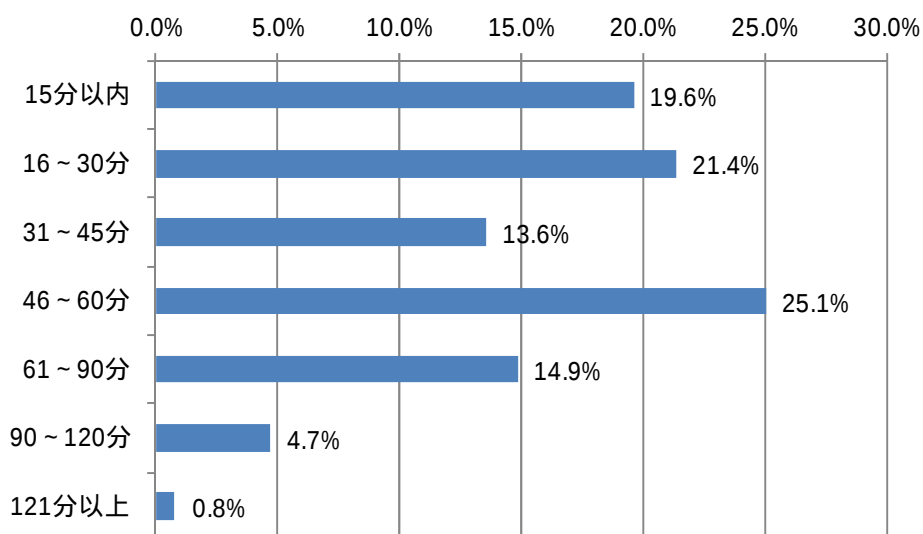


【4.仕事】

（１）通勤・通学時間

通勤時間は 46～60 分が 25.1%と最も多く、次いで 16～30 分が 21.4%、15 分以内が 19.6%、61～90 分が 14.9%と続いた。

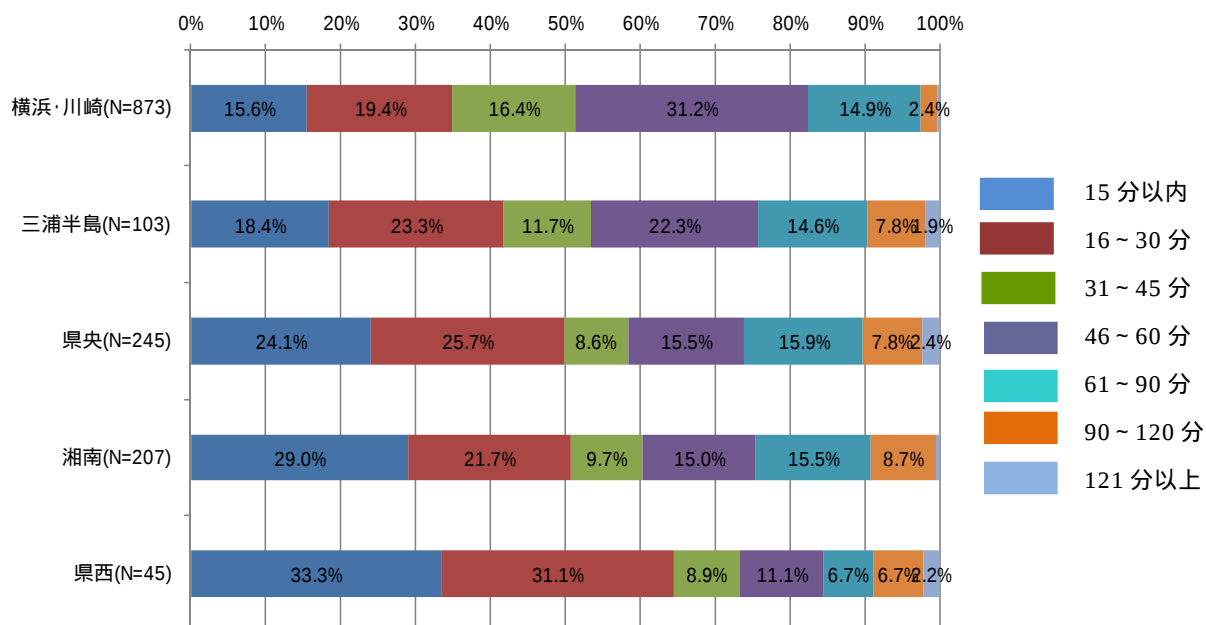
回答者の平均通勤・通学時間は 46 分だった。



< 地域別 >

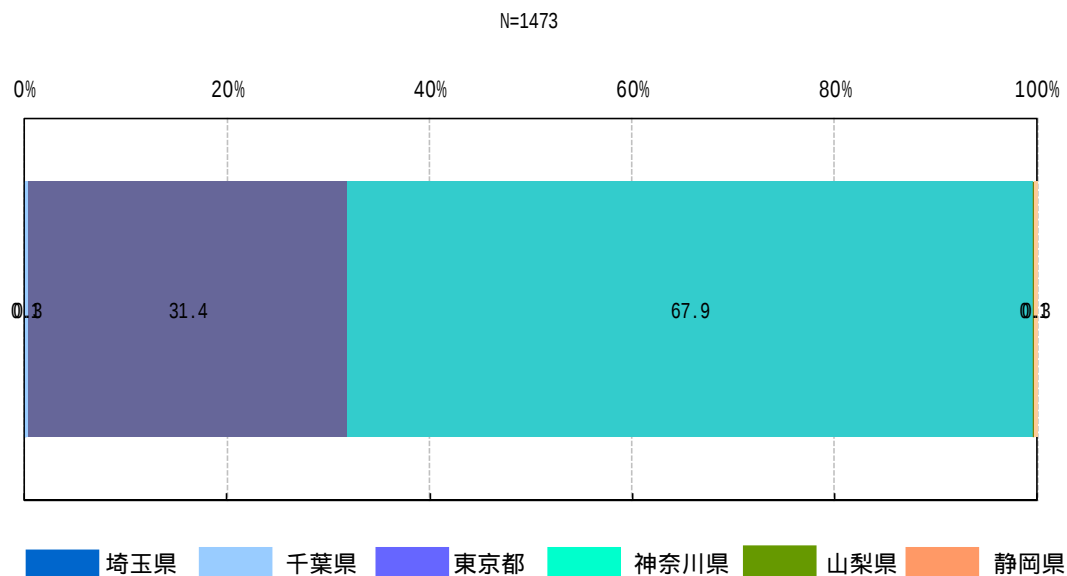
地域別にみると、15 分以内と回答した者の割合は 33.3%と、県西地域で最も高かった。

一方、通勤・通学時間が 61 分以上と回答した者の割合は、県央地域で最も高く、横浜・川崎地域から三浦半島、県央地域へと、都心部から離れるにつれ長時間通勤・通学に時間を当てている者の割合が高くなっている。



(2) 勤務地・通学地

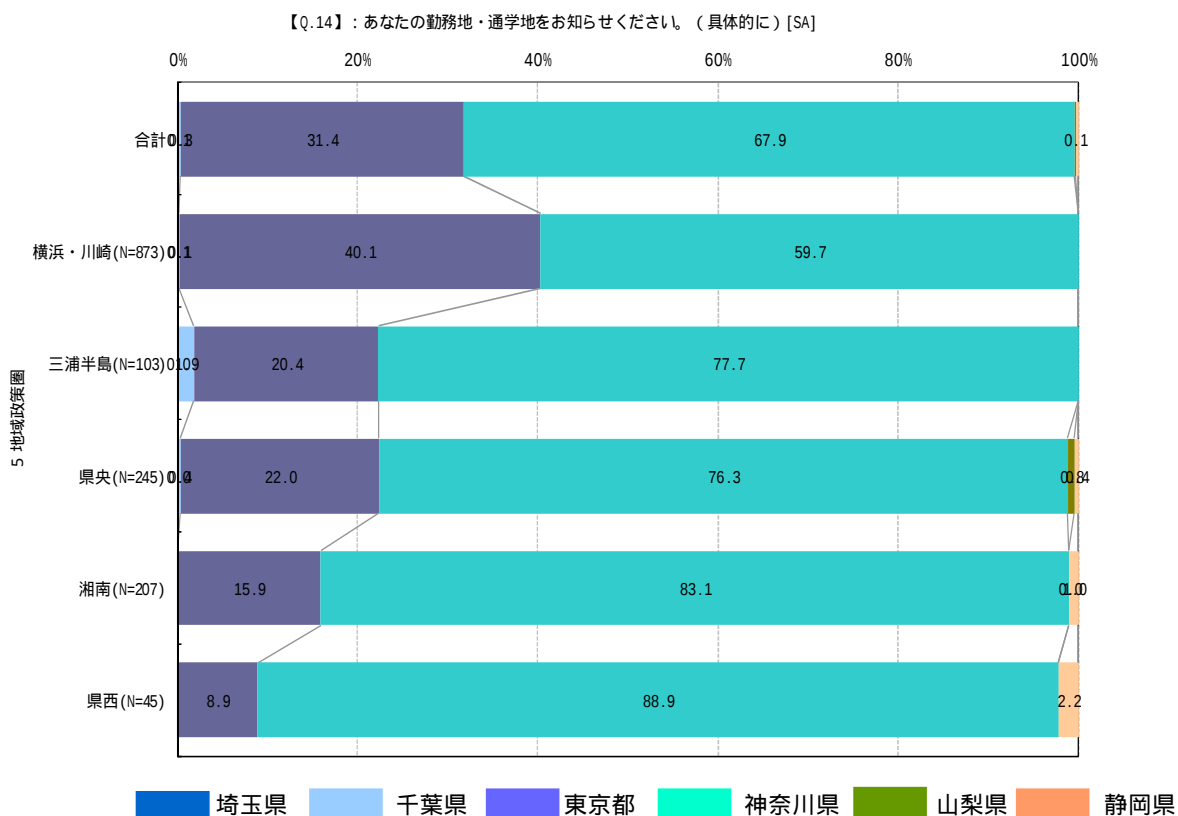
回答者の勤務地、通学地は神奈川県が 67.9%で最も多く、次いで東京都が多かった。



< 地域別 >

地域別に見ると、横浜・川崎地域が神奈川県外で勤務・通学する人の割合が最も高く、約 4 割の人々が県外に通っている。

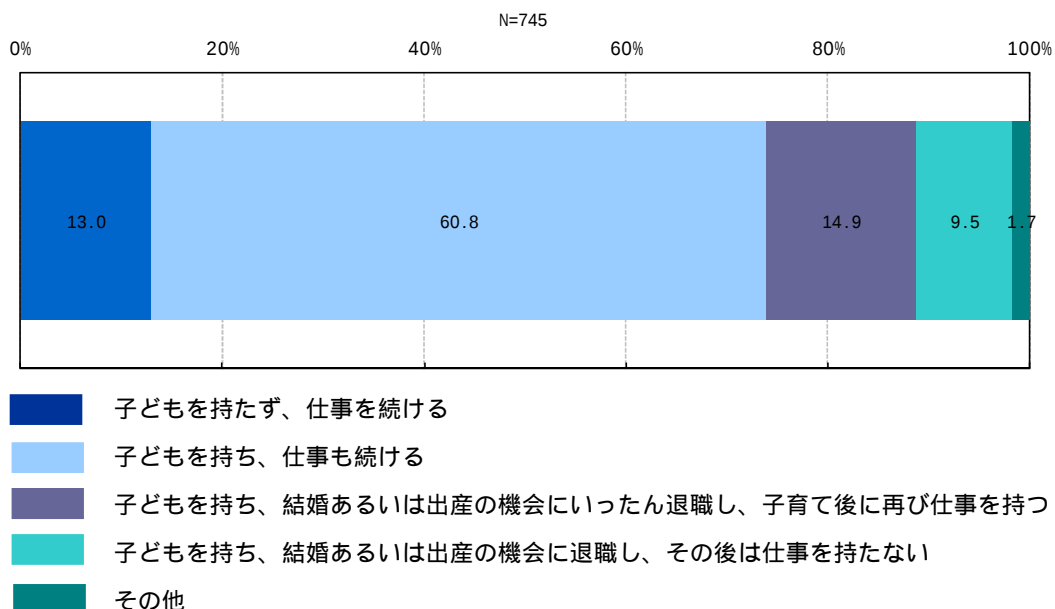
一方で、県西地域が神奈川県内で勤務・通学する人の割合が最も高い。



(3) 結婚した場合の就業希望

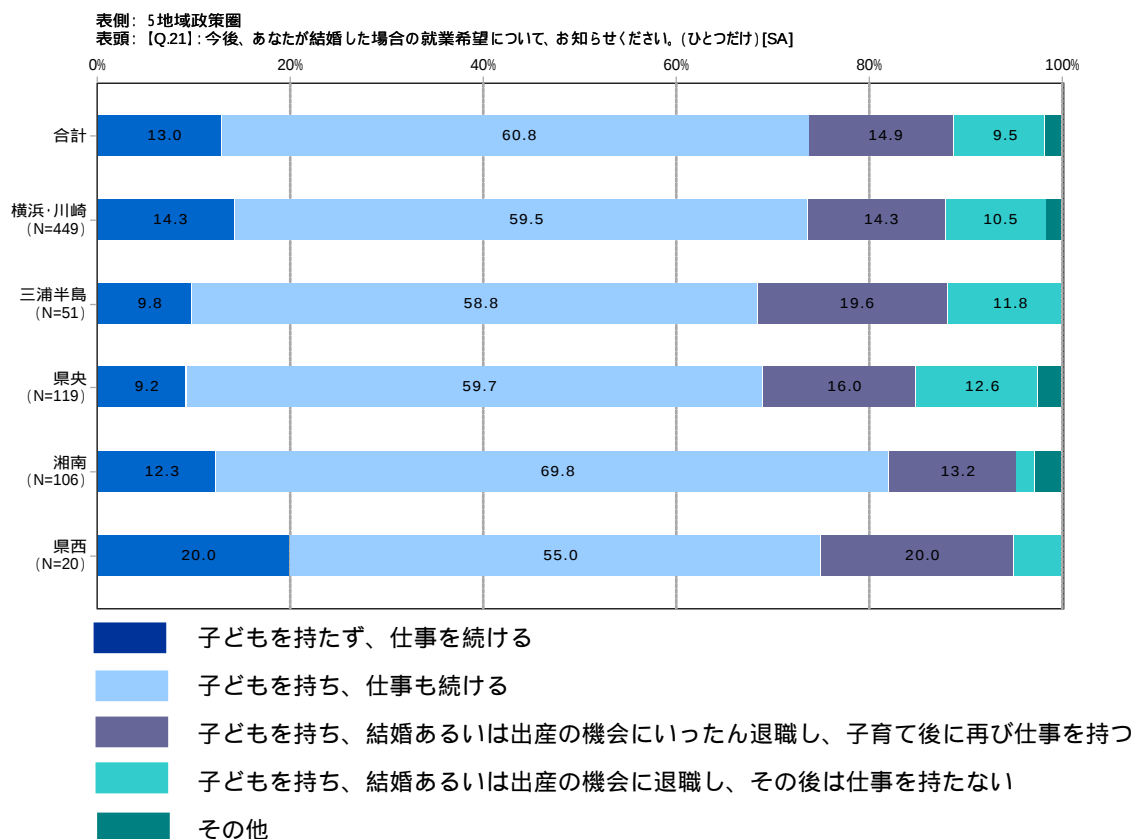
「いずれ結婚するつもり」と回答した者のうち、結婚した場合の就業希望としては、「子どもを持ち、仕事も続ける」が最も多く 60.8%であった。

「子どもを持ち、結婚あるいは出産の機会にいったん退職し、子育て後に再び仕事を持つ」、「子どもを持ち、結婚あるいは出産の機会に退職し、その後は仕事を持たない」と回答した者はあわせて 24.4%であった。



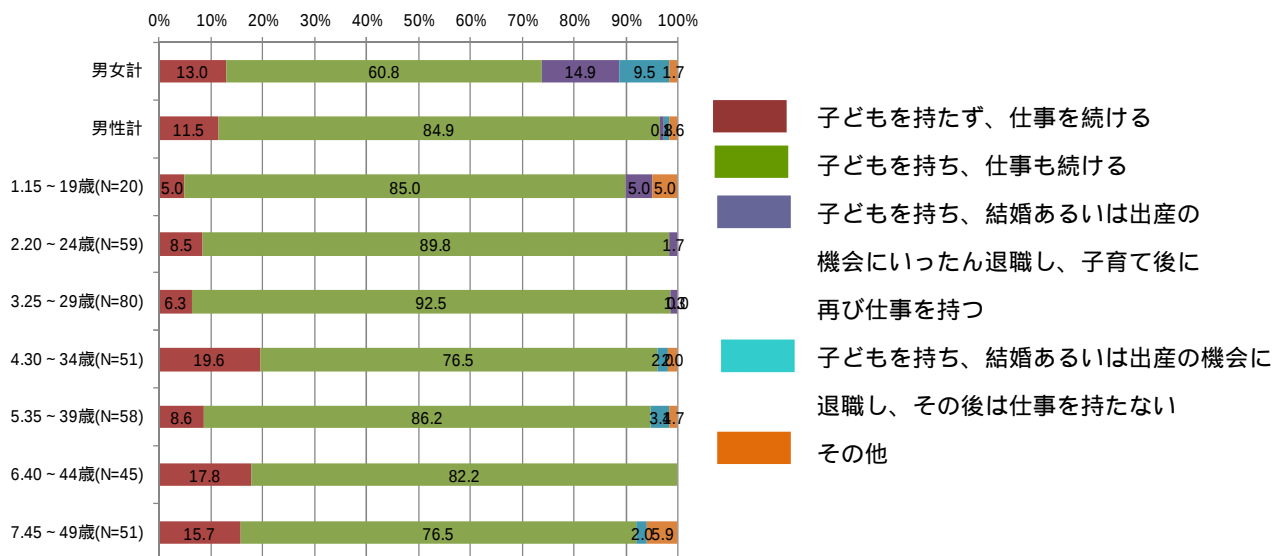
< 地域別 >

地域別に見ると、「子どもを持たず、仕事を続ける」の割合が県西地域で 20.0%と最も高くなっている一方で、「子供を持ち、仕事を続ける」の割合が 55.0%と最も低くなっている。



<年齢別 男性>

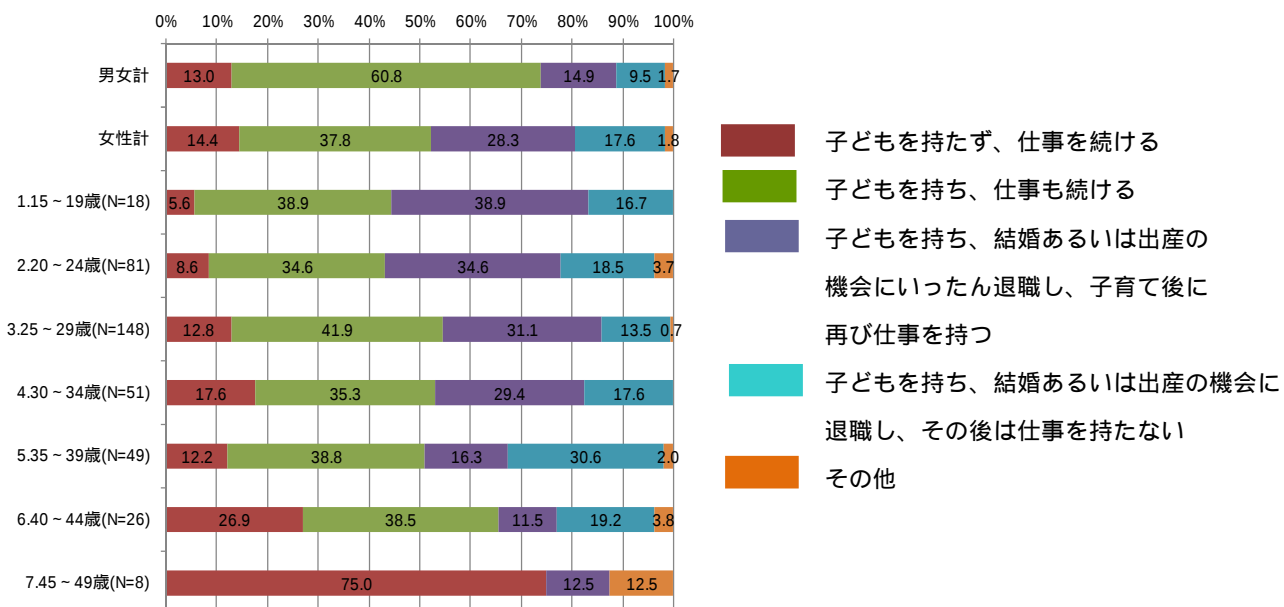
年齢別にみると、男性の場合、全ての年代で、1「子どもを持たず、仕事を続ける」、2「子どもを持ち、仕事も続ける」と答えた者の割合が9割を超えている。



<年齢別 女性>

年齢別にみると、女性の場合、35～39歳の年代で、4「子どもを持ち、結婚あるいは出産の機会に退職し、その後は仕事を持たない」と回答した割合が最も高い。

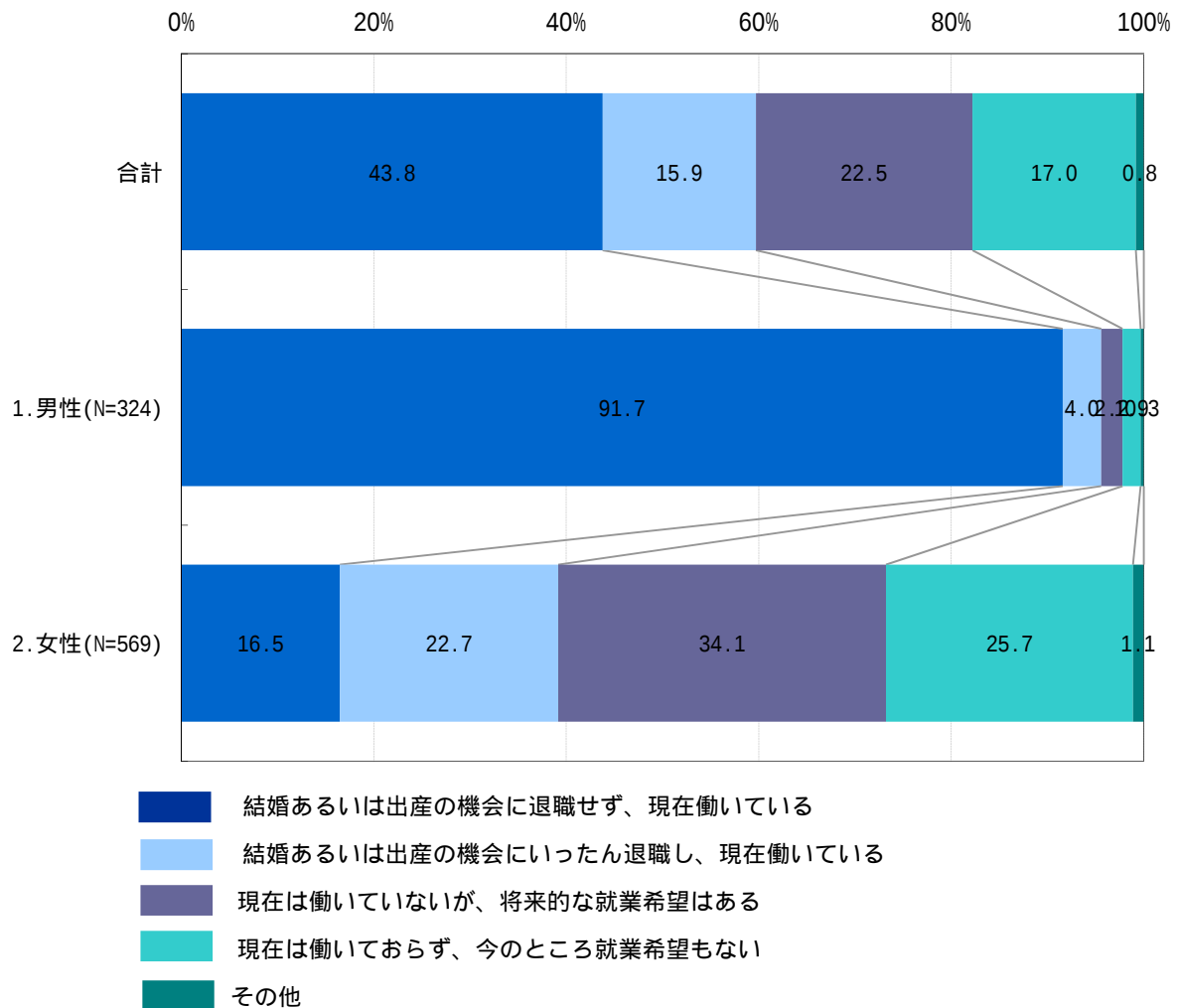
一方、3「子どもを持ち、結婚あるいはしゅっさんの機会にいったん退職し、子育て後に再び仕事を持つ」と回答した割合は、15～19歳（38.9%）、20～24歳（34.6%）の年代で高くなっている。



(4) 現在の就労状況と、働いていない場合の就業希望

「結婚している」と回答した者のうち、「結婚あるいは出産の機会に退職せず、現在働いている」と答えた者は 43.8%であった。

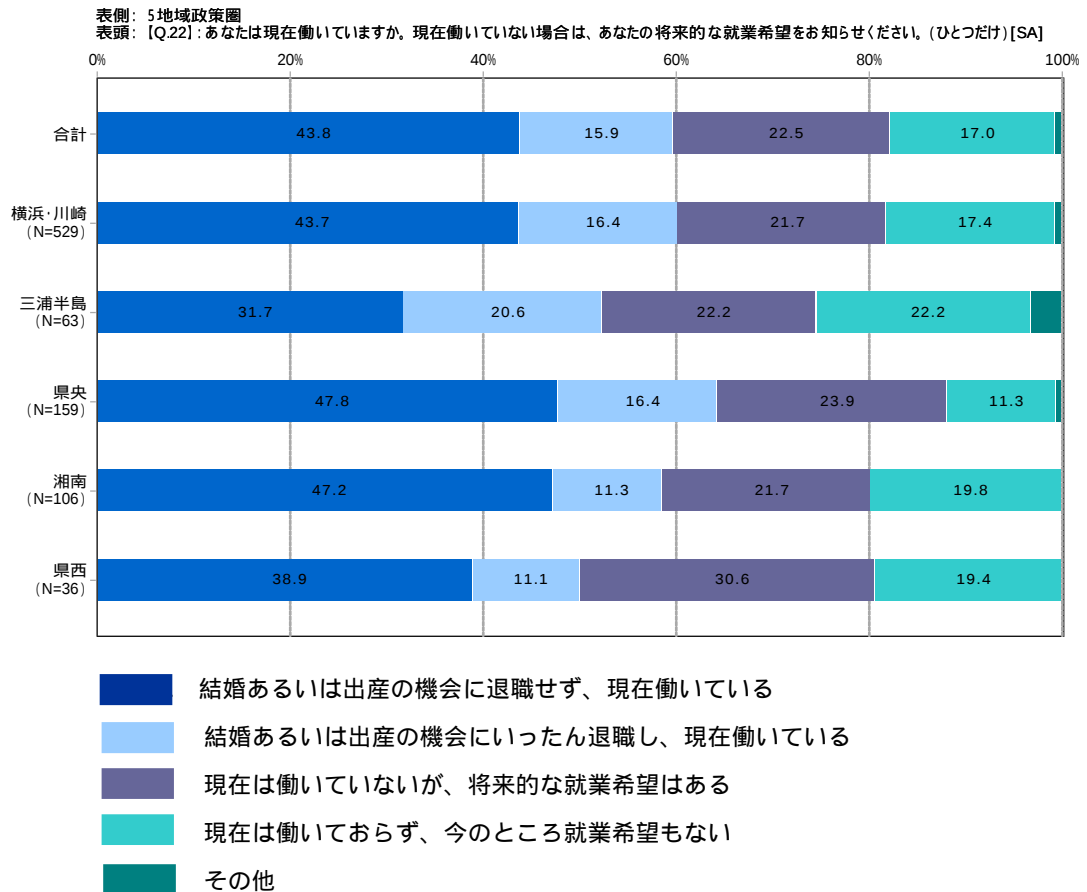
一方で「結婚あるいは出産の機会にいったん退職し、現在働いている」と回答した者は 15.9%、「現在は働いていないが、将来的な就業希望はある」と回答した者が 22.5%、「現在は働いておらず、今のところ就業希望もない」と回答した者が 17.0%であった。



< 地域別 >

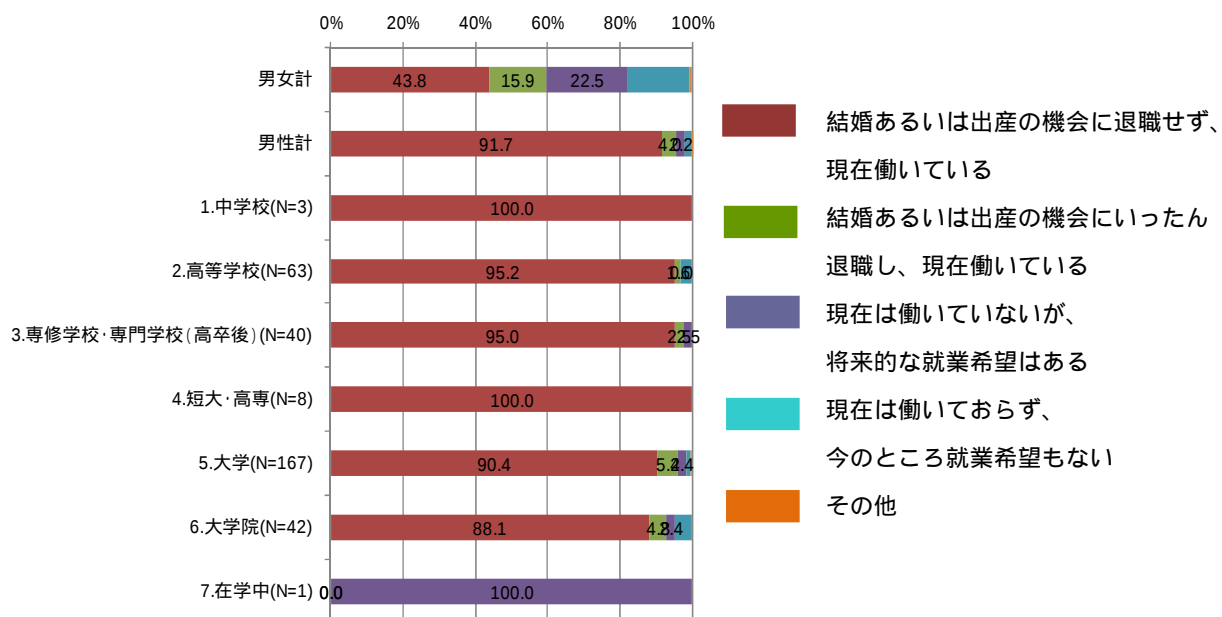
地域別に見ると、「結婚あるいは出産の機会に退職せず、現在働いている」人の割合は県央地域で 47.8%、湘南地域で 47.2%と高い一方、三浦半島地域で 31.7%と低くなっている。三浦半島地域では「現在は働いておらず、今のところ就業希望もない」が 22.2%と最も高くなっている。

一方で、「現在は働いていないが将来的な就業希望はある」は県西地域で 30.6%と最も高くなっている。



< 最終学歴別 男性 >

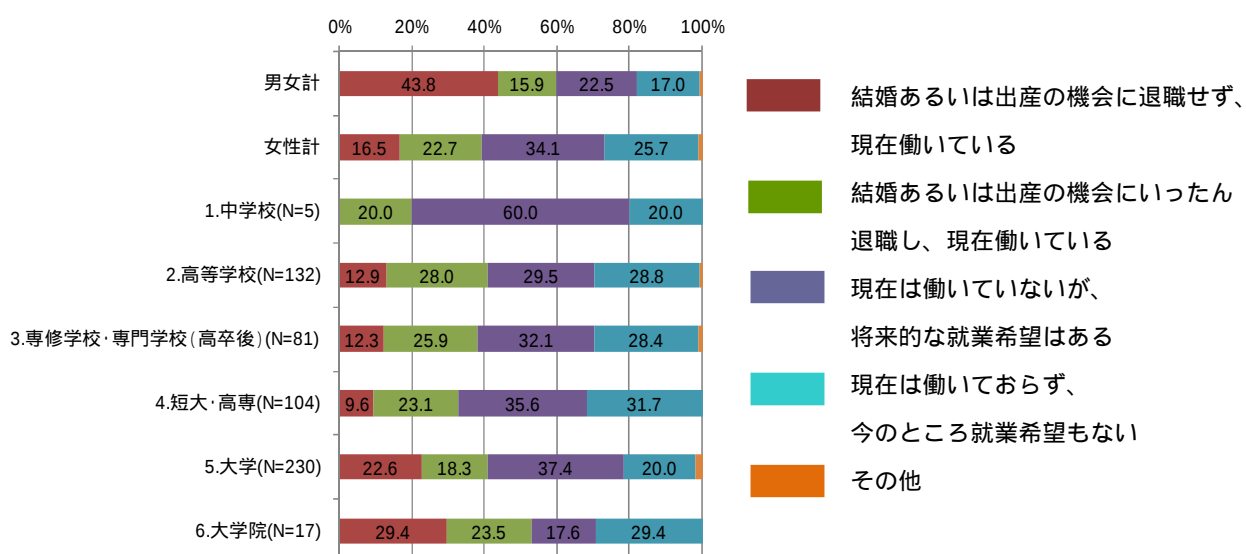
最終学歴別にみると、在学中の者を除き、全ての最終学歴の男性で、1「結婚あるいは出産の機会に退職せず、現在働いている」人の割合が圧倒的に高くなっているが、最終学歴が大学、大学院と高学歴になるほど、その割合は減少している。



< 最終学歴別 女性 >

最終学歴別にみると、1「結婚あるいは出産の機会に退職せず、現在働いている」人の割合は大学で22.6%、大学院で29.4%と高くなっている。

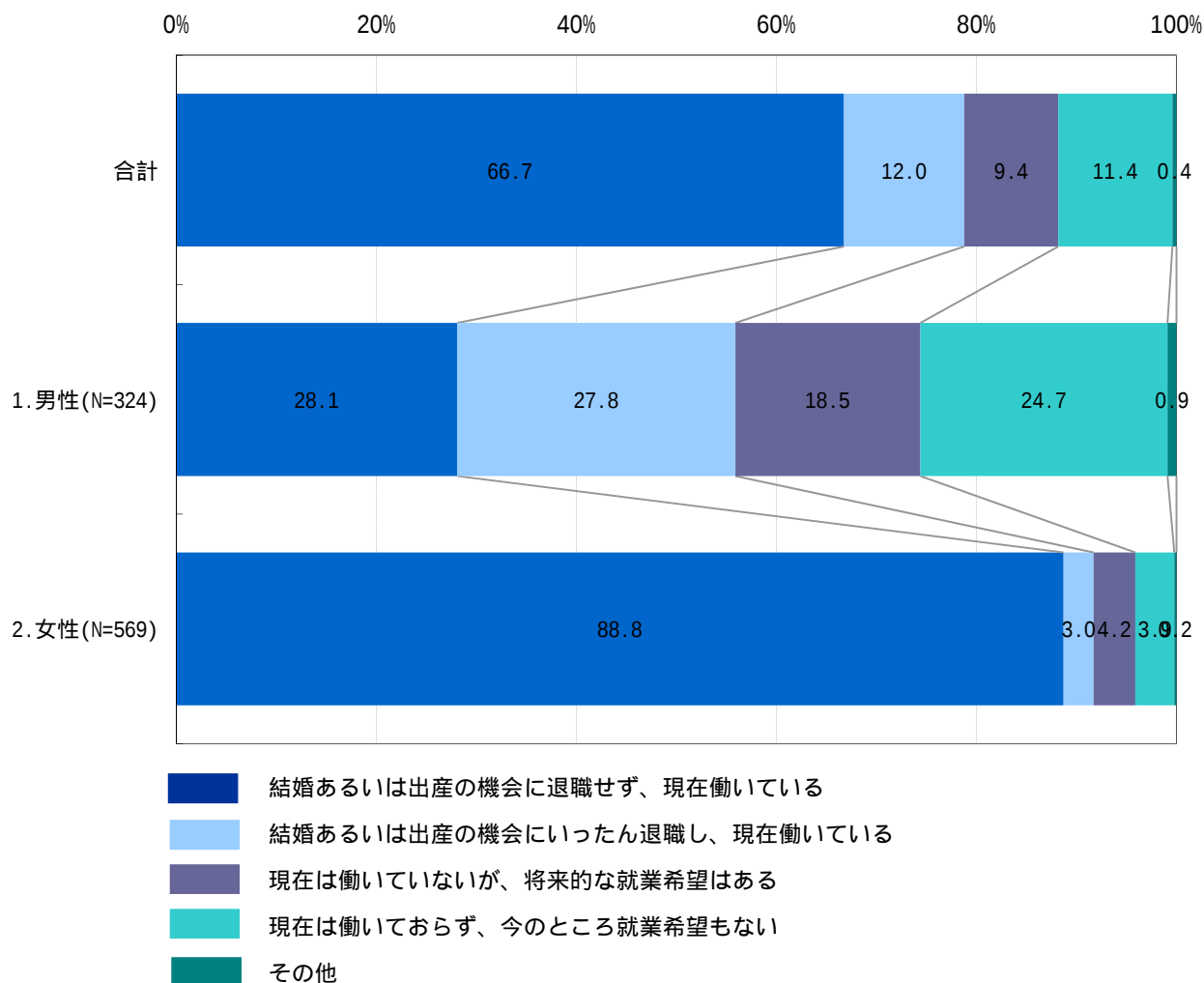
最終学歴が大学の女性のうち、2「結婚あるいは出産の機会にいったん退職し、現在働いている」人の割合は他の最終学歴の女性と比べて最も低く(18.3%)、3「現在は働いていないが、将来的な就業希望はある」人の割合は高くなっている(37.4%)。



(5) 配偶者の現在の就労状況と、働いていない場合の就業希望

「結婚している」と回答した者のうち、配偶者が「結婚あるいは出産の機会に退職せず、現在働いている」と回答した者は 66.7%であった。

「結婚あるいは出産の機会にいったん退職し、現在働いている」と回答した者は 12.0%、「現在は働いていないが、将来的な就業希望はある」と回答した者が 9.4%、「現在は働いておらず、今のところ就業希望もない」と回答した者が 11.4%であった。

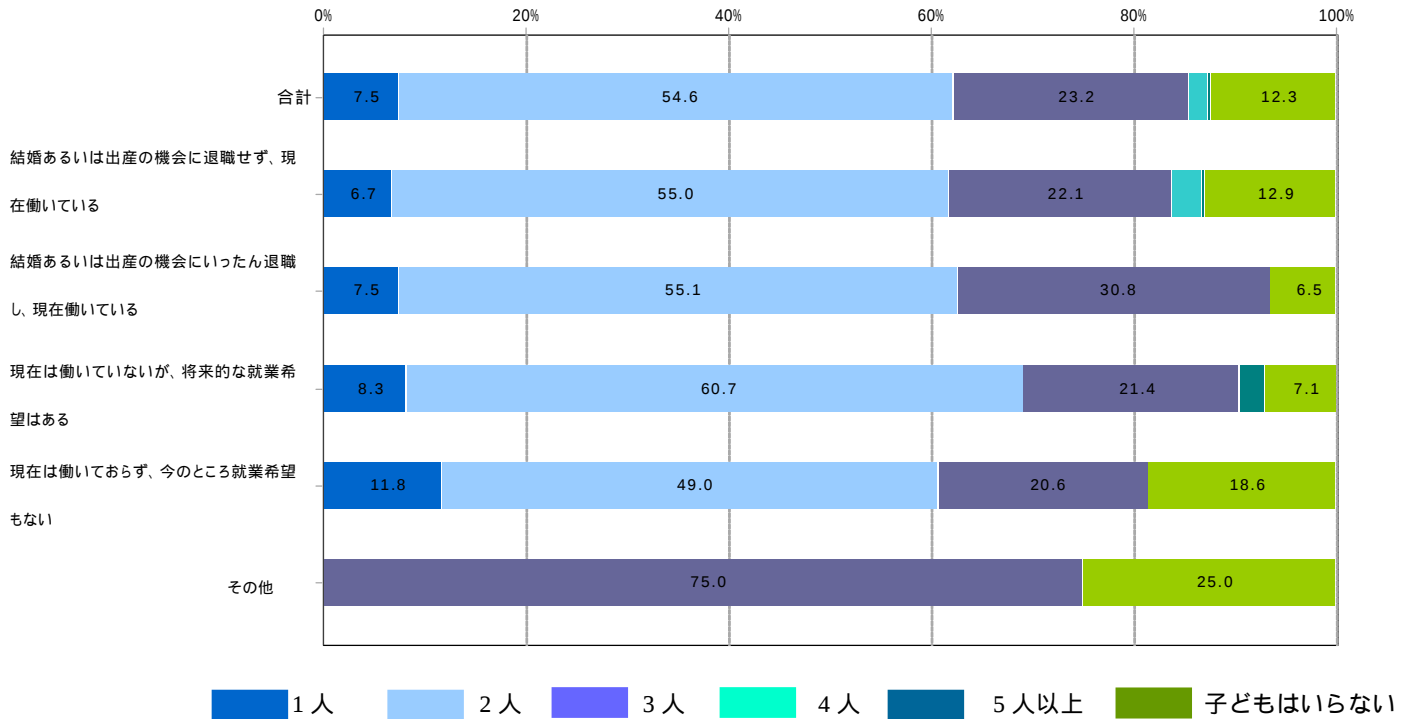


< 理想的な子どもの数別 >

理想的な子どもの数別に見ると、2「結婚あるいは出産の機会にいったん退職し、現在働いている」人のうち、2人以上が理想の子どもだと答えた者の割合が85.9%と最も高かった

一方で、4「現在は働いておらず、今のところ就業希望もない」人のうち、子どもは持たないと回答した者の割合が相対的に高く、25%となっている。

表例：[Q.23]：あなたの配偶者は現在働いていますか。現在働いていない場合は、あなたの配偶者の将来的な就業希望をお知らせください。(ひとつ
表頭：[Q.25]：あなたにとって、理想的な子どもの数は何人ですか。(ひとつだけ)[SA]

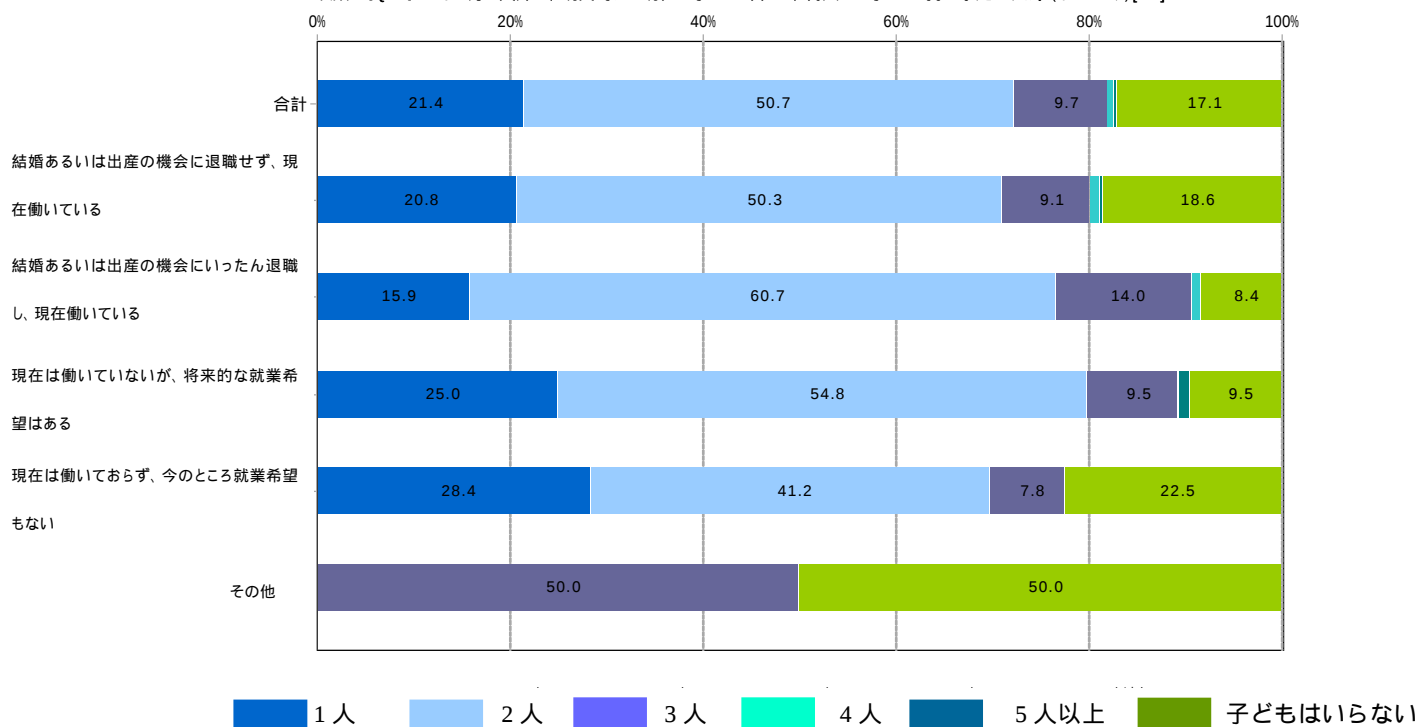


<現実的な子どもの数別>

現実的な子どもの数別に見ると、理想的な子ども別と比べて、総じて子どもは1人、もしくは「子どもは持たない」と回答した者の割合が増えている。

「結婚あるいは出産の機会にいったん退職し、現在働いている」人のうち、2人以上の子どもを現実的な子どもの数として回答している者は74.7%で、一度退職しても原罪働いているものは比較的多くの子どもを持つ予定を見通すことができる傾向にあると言える。

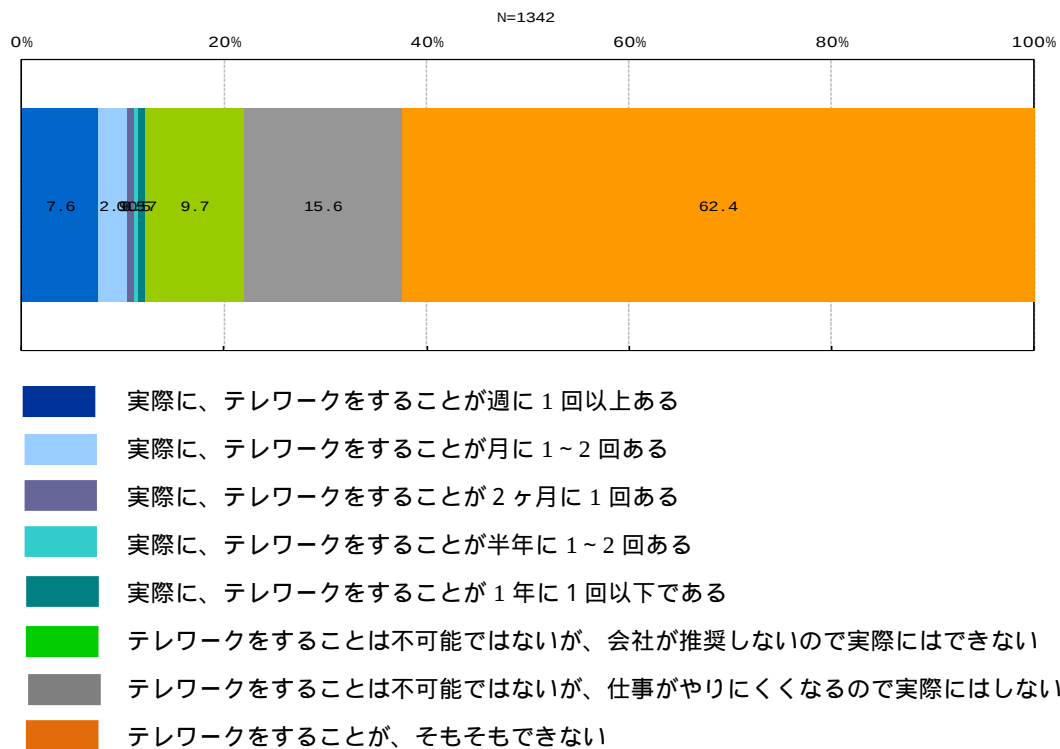
表側：[Q23]：あなたの配偶者は現在働いていますか。現在働いていない場合は、あなたの配偶者の将来的な就業希望をお知らせください。(ひとつ表頭：[Q26]：あなた方ご夫婦は、現実的には現在の子どもを含めて、何人のお子さんを持つ予定ですか。(ひとつだけ)[SA]



(6) テレワークの可能性および、担当している業務における状況

「職業」について、5.学生、6.専業主婦・主夫、7.無職以外を回答した者のうち、情報通信機器を使って、自宅で仕事をする在宅勤務等職場以外の場所で仕事すること（以下、テレワーク）について、「テレワークをすることが、そもそもできない」と回答した者が最も多く、62.4%であった。

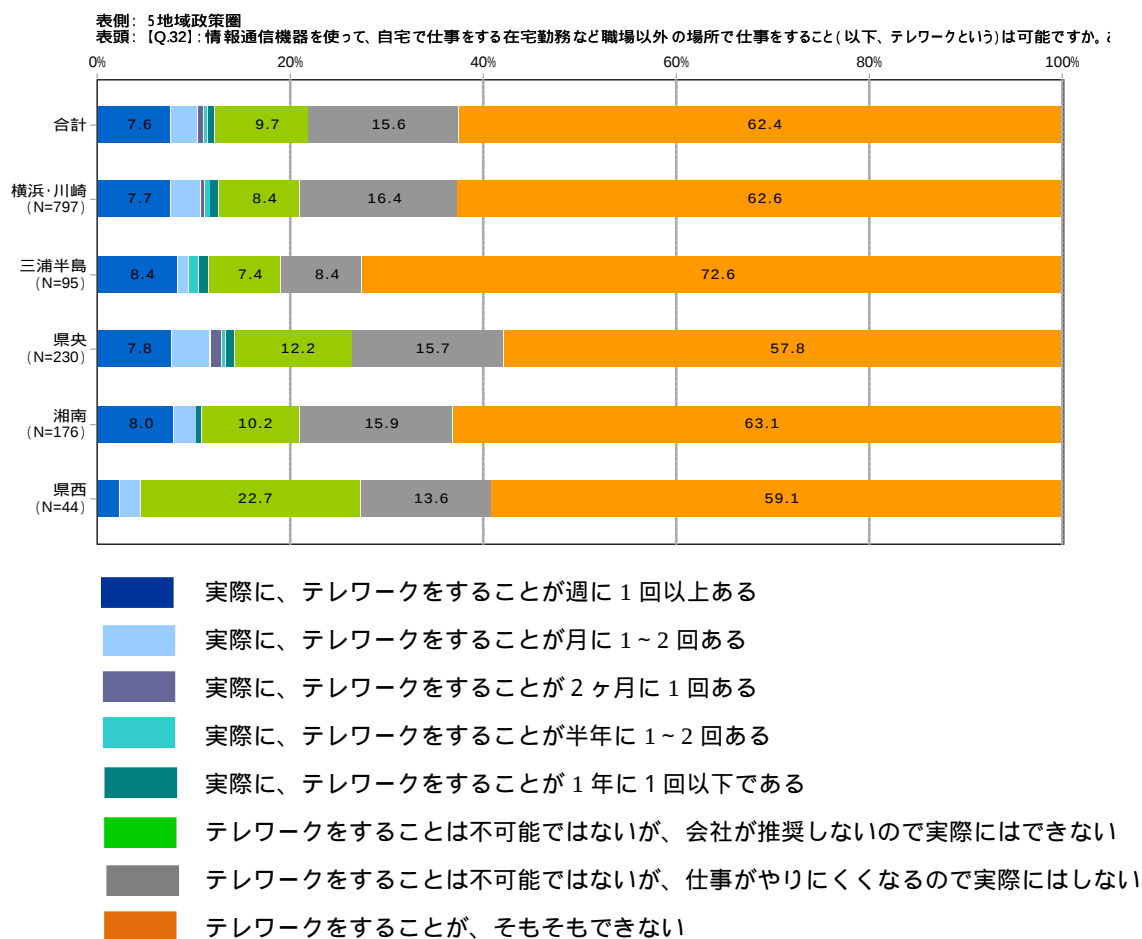
次に回答者が多かったのは、「テレワークをすることは不可能ではないが、仕事がやりにくくなるので実際にはしない」（15.6%）、「テレワークをすることは不可能ではないが、会社が推奨しないので実際には出来ない」（9.7%）であった。



<地域別>

地域別に見ると、三浦半島地域において「テレワークをすることがそもそもできない」という割合が72.6%と最も高くなっている。

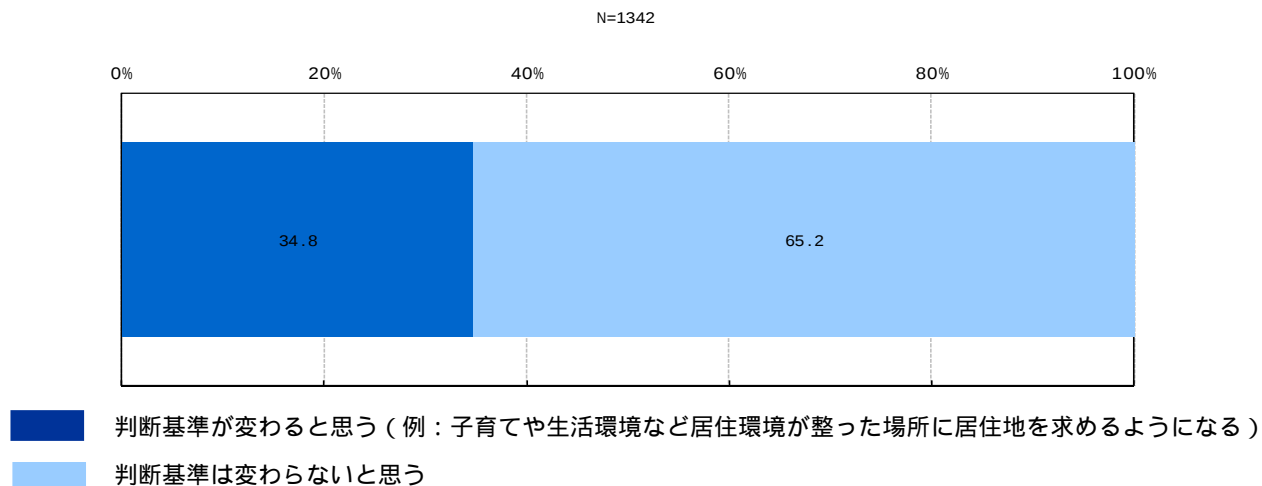
また、県西地域においては「テレワークをすることは不可能ではないが、会社が推奨しないので実際にはできない」という割合が22.7%と最も高くなっている。



(7) テレワークが推奨された場合の今後の回答者の居住地選択の判断基準の変化

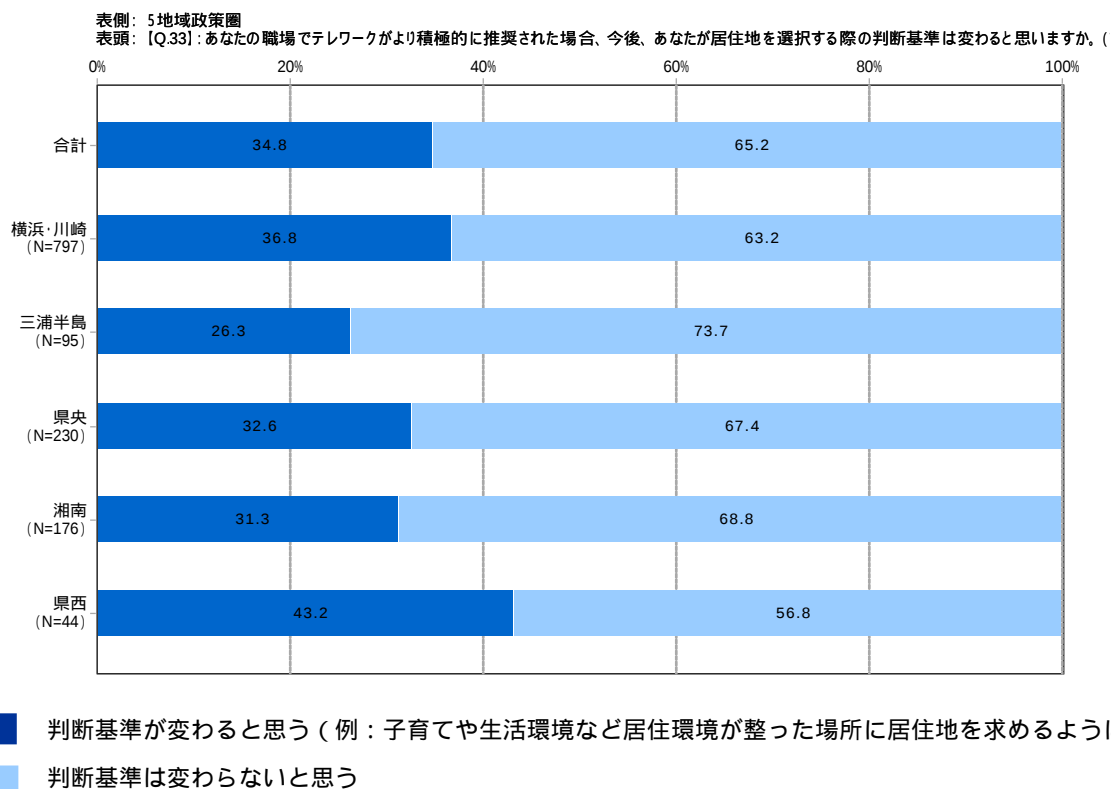
「職業」について、5.学生、6.専業主婦・主夫、7.無職以外を回答した者のうち、職場でテレワークが積極的に推奨された場合、今後、居住地を選択する際の「判断基準が変わると思う」（例：子育てや生活環境など居住環境が整った場所に居住地を求めるようになる）と回答した者は34.8%であった。

一方で、テレワークが推奨された場合でも「判断基準は変わらないと思う」と回答した者は65.2%であった。



< 地域別 >

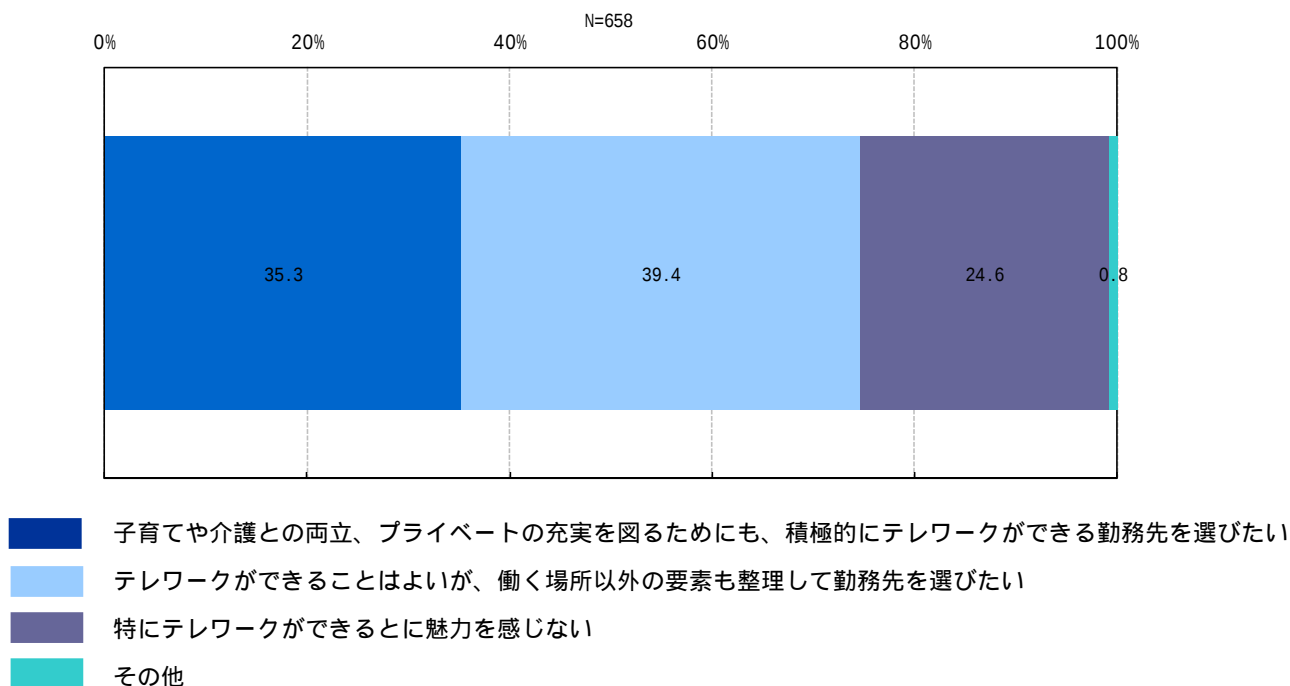
地域別に見ると、県西地域においてテレワークが推奨された場合に、居住地を選択する際の「判断基準が変わる」という回答が43.2%と最も高く、次いで横浜・川崎地域（36.8%）と続いた。



(8) テレワークについての考え方

「職業」で、5.学生、6.専業主婦・主夫、7.無職を回答した者のうち、テレワークについて、「テレワークができることはよいが、働く場所以外の要素も重視して勤務先を選びたい」と回答した者は 39.4%で最も多かった。

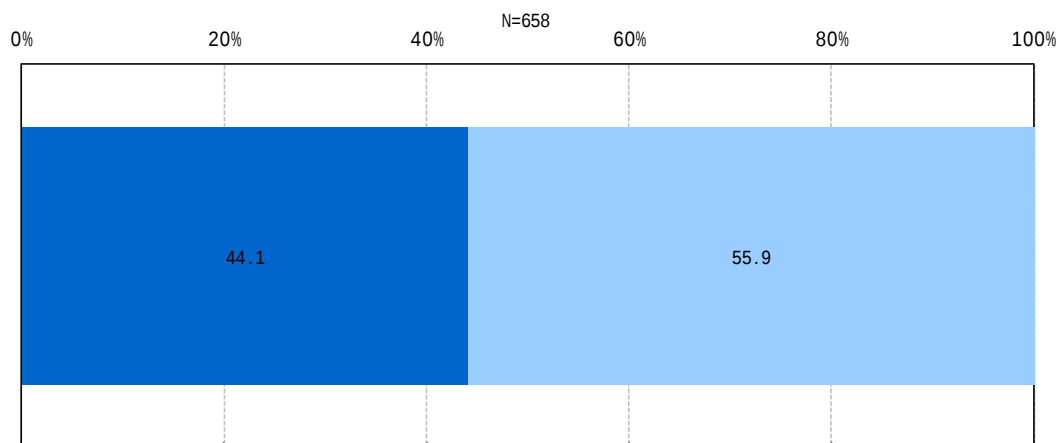
一方で「子育てや介護との両立、プライベートの充実を図るためにも、積極的にテレワークができる勤務先を選びたい」と回答した者は 35.3%で、「特にテレワークができることに魅力を感じない」と回答した者は 24.6%であった。



(9) 将来テレワークができる仕事に就いた場合の居住地選択の判断基準の変化

「職業」について、5.学生、6.専業主婦・主夫、7.無職を回答した者のうち、将来、テレワークができる仕事に就いた場合、居住地を選択する際の「判断基準が変わると思う」（例：子育てや生活環境など居住環境が整った場所に居住地を求めるようになる）と回答した者は 44.1%であった。

一方で、「判断基準は変わらないと思う」と答えた者が 55.9%であった。



- 判断基準が変わると思う（例：子育てや生活環境など居住環境が整った場所に居住地を求めるようになる）
- 判断基準は変わらないと思う